明治二十七年八月二十五日第三種郵便物認可

July 20th 1905.

Report of the Sericultural Association of Japan.

No. 139.

大日本蠶絲會報

第百五拾九號目要

論議

●大日本蠶絲會の擴張に就て　男爵　松平正直

蠶絲業者諸君に望む　練木喜三

●刻下の急務

●農蠶研究豫報　理學博士　佐々木忠次郎

●蛻皮論　池田榮太郎

●製絲用水質撰定の必要に就て　農學士　中村雅次郎

●天蠶及柞蠶に就て　松下憲三朗

●煮繭湯量の研究　三谷徹

雜錄

●複式綾振器の改良　渡邊潔

外報

●佛國養蠶業　峰村喜藏

●滿洲近信　農學士　辻暢太郎

TOKYO.
The Association:
No. 2 Mitoshirocho, Sanchome, Kanda, Japan.

廣告

征露の皇師連戰連捷威風堂々四海を震撼する所以のもの海陸軍人が忠勇なるの致す所なりとは雖も、抑も亦、陛下の威稜と神靈の加護あるに非ずんば焉ぞ能く此の如くなるを得んや、此時に當り本會第八回品評會を開設し特に地を皇祖大廟の靈地に選定せる所以のもの、吾人蠶絲業者が海陸軍人の擧に倣ふて君國に貢献し、神靈の加護に依り大に蠶絲業の發展を期し富源の涵養をなし、以て富力を増して武威と併行せしめ、本邦の隆名を世界に顯揚せんとする希望に外ならざるなり、庶幾くは蠶絲業の生産に從事する諸君此意を諒とし奮て出品せられんことを

紀念 戰捷 品評會廣告

紀念 戰捷 大日本蠶絲會第八回品評會出品心得

第一條 大日本蠶絲會第八回品評會は明治三十八年十一月一日より七日迄七日間三重縣伊勢國度會郡宇治山田町に開設す

第二條 出品の種類及數量は左の如し

種類 繭 生絲 蠶種 蠶具

數量 繭 壹升以上 生絲 十八匁以上

蠶種 板紙五枚綴以上 普通製壹枚以上

蠶具 壹個以上

第三條 出品の蠶種は蠶病豫防法に依り總て檢査濟のものたるべし

第四條 出品物及出品目錄は左記期日迄に三重縣度會郡役所内大日本蠶絲會品評會事務所延送せらるべし

但出品は受入期限後に至り到着したるものは審査を加へず

出品目錄 七月十五日 出品物 十月二十日

明治三十八年八月

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報廣告料（三十六年十二月改正）

特等		並等	
一頁	壹圓	一頁	壹圓
半頁	六十錢	半頁	三十錢
四分ノ一頁	三十錢	四分ノ一頁	二十錢
一頁乃至二頁	十圓	一頁乃至二頁	六圓
半頁乃至二頁	六圓	半頁乃至二頁	三圓
四分ノ一頁乃至二頁	三圓	四分ノ一頁乃至二頁	二圓
一行	五十錢	一行	十錢
會員外十二圓七十錢	四圓	會員外十二圓七十錢	二圓五十錢
會員十圓	六圓	會員十圓	三圓
會員八圓	五圓	會員八圓	三圓
會員外十圓	六圓	會員外十圓	三圓五十錢
會員八圓	五圓	會員八圓	三圓
會員外八圓	五圓	會員外八圓	三圓
會員六圓	四圓	會員六圓	二圓五十錢
會員外七圓	五圓	會員外七圓	三圓五十錢
會員五圓	三圓	會員五圓	二圓
會員外六圓	四圓	會員外六圓	二圓五十錢
會員四圓	二圓五十錢	會員四圓	十八錢
會員外五圓	三圓	會員外五圓	十六錢

一頁は一行二十七字詰七十二行とす
四分の一頁未滿は行數を以て計算す
特等は四分の一頁未滿を謝絶す
廣告料は前金に限る

◉本報定價 一ヶ年分前金壹圓五拾錢 一冊金拾五錢

明治三十八年八月二十日印刷發行

編輯兼發行人 東京市神田區美土代町三丁目三番地 小池市松

印刷人 東京市神田區美土代町二丁目一番地 島連太郎

印刷所 東京市神田區美土代町二丁目一番地 三秀舍活版所

發行所 東京市神田區美土代町三丁目二番地 大日本蠶絲會（電話本局一四七三番）

稟告

本會々費は規則第八條に依り前納すべき規定に有之候に付會費滿了の其月に於て御通知可申候間必ず御拂込相成度候也

大日本蠶絲會

春夏秋蠶蟻量壹匁飼育標準表

壹枚金壹錢 郵稅貳拾枚迄 貳錢

右は東京蠶業講習所試驗飼育の標準表なりしが本會々報第百四十五號附錄として會員に頒ちしに爾後所望非常に多く依て更に數萬部を印刷し廣く當業者に頒つ

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報 第百五拾九號

目次

論叢

●大日本蠶絲會の將來に就て蠶絲業者諸君に望む　男爵 松平正直

●刷下の急務　橋木喜三

●蠶蛾研究報　理學博士 佐々木忠次郎

●蛇皮論　池田榮太郎

●製絲用水質測定の必要に就て　農學士 中村雅次郎

●天蠶及柞蠶に就て　松下憲三郎

●蒸鍋湯釜の研究　三谷毅

雜錄

●模式綾振器の改良　當邊儀

●蠶絲業と厩舍改良　

問答

●嘗桑蛾等の件に就き質問設答●蠶蛾産卵の有無に就き質問設答●風穴蠶室の件に就き質問設答●石油燈足踏器の件に就き質問設答●蠶糞採種に就き質問設答●製絲汽鍋の件に就き質問設答

絲況

●橋浦市場●横濱市場●里昂市場●上海市場

外報

●佛國養蠶業　峰村喜藏

●諸州近信　農學士 辻鶴太郎

●伊太利養蠶の狀況

時報

過般貴縣巡回の際は種々御厚情に預り鳴謝の至りに不堪候本月四日無事歸京候條誌上を以て及御挨拶候　敬具

明治三十八年八月

大日本蠶絲會々頭
男爵 松平正直

埼玉群馬茨城
栃木宮城福島
青森山形秋田
各縣

大日本蠶絲會員
並有志諸君御中

先般松平會頭に同行貴縣に出張候節は不一方御懇情を賜はり奉感謝候本月四日無事歸京致候間不取敢誌上を以て御禮申上候　敬具

明治三十八年八月

大日本蠶絲會技藝委員
練木喜三

埼玉群馬茨城
栃木宮城福島
青森山形秋田
各縣

大日本蠶絲會員
並有志諸君御中

◉精良春蠶種販賣廣告

種類

●大又●丸志保●良白(A名)●白玉(B名)●改良又昔●改良小石丸●大巢白龍

前掲蠶種は天理の原則に法り自然の道理に基き大氣の清通を旨とし四十餘日間利根川沿岸の良桑を以て飼育し殊に精巧の顯微鏡撰種法と「トリラー」式消毒法とを以て專ら學理の應用に隨ひ病毒を除き抗疫性に富む完全純良の蠶種に御座候蠶種類の義は多年の經驗を以て飼育し易く繭質善良繊緯均一絲量最も多きものを改良撰擇せしものに御座候間多少に不拘御試育相願度此段養蠶家諸君へ拜告仕候

代價●全面平附壹枚金壹圓四拾錢●框製壹蛾生　金貳錢五厘

割引●平附拾枚原種用壹千蛾以上壹割引●農會其の他團體等に於て一手に多數御購求の節は特別に御相談可仕候

蠶種は代金郵送附濟みの順序を以て郵送す●郵便爲替は上野國佐波郡島村局へ御振込みの事●蠶種郵送料箱代は桑園の負擔に候也

群馬縣佐波郡島村勸業社
桑柘園　田島彌平蠶事部

○夏秋蠶専門 信蠶社 社則申込次第送呈○
本社は夏秋蠶の本場起源地に在て專心斯業の發達に努ひ賛助員には大日本蠶絲會技藝委員あり主幹は責任を以て熟識業に從ふ
社員●夏秋蠶傳習生●地方委員●蠶種特約販賣人●を募集す委細社則にあり

強健純良な秋蠶種夏秋蠶原種 製造販賣
信蠶社 第四回秋蠶繭品評會
社員及び秋蠶篤志者の出品を勵奬す十月二十日迄に產繭三合に飼育表を添へ本社へ送付を乞ふ審査の上賞狀賞品を贈與す
信州東筑摩郡本郷村 松本郵便局下 主幹 鳥羽久吾

甲斐特產 一化性秋蠶種 風穴種 七月廿五日より八月卅日迄
國益親玉霜ノ下蠶 一號八月二十日より二號二號同十日より三號九月一日より四號同百日付一枚金壹圓五拾錢全面付一枚金貳圓共同購入
代價割引仕候 出穴改桑苗大葉種類各種 圓迄豫約申込期十月三十日限り
蠶絲會員 旭館主 菅沼周平
山梨縣東山梨郡岡部村石和停車場より北三町

●桑苗各種定價表性質效用土地仕立方之適否種類鑑別法等細密說明書御入用の向は往復葉書御照會次第直に發送仕候
弊社本秋販賣の桑苗品位種類精撰接木苗及二年苗代出苗一年生挿取苗等にて其純良なること海外各國より無上の高評を博し昨秋以來清韓暹羅國等え壹百餘萬本を輸出せしは海外大輸出の魁にて頗る幸福の至りに付向本年は一層良種類を增加多數培養仕候間多少に拘らず御需用者は至急御申込被下度候
東京府豐多摩郡淀橋町字角筈壹番地
東京帝國農科大學
東京蠶業講習所
京都蠶業講習所
清韓暹羅各政府
御用達 桑蠶社 主任 桑原宏

●大早生桑種 十四種
●普通早生桑種 三十七種
●中生桑種 五十種
●晩生桑種 二十種
●斎木仕立桑種 四十五種
●夏秋蠶青葉用桑種 十一種
●清國原產拓桑
●魯桑實生各種及び種子
●木苗代出し苗原料各種
●接木用穗木各種

大日本蠶絲會報 第百五拾九號

論叢

大日本蠶絲會の擴張に就て蠶絲業者諸君に望む

會頭男爵 松平正直

右は本會會頭松平男爵が本年宇都宮の用務を帶びて栃木、茨城、群馬、埼玉、福島、山形、秋田、青森、宮城等の各縣に出張ありし際、彼本會擴張に關し其地方蠶絲業者に對て演述せられた概要を筆記せるものなり。

諸君私は松平正直であります、今回赤十字社の用務を帶びて當地に參りましたが、其序を以て蠶絲業に從事せらるゝ諸君と面接することを得たるは正直の深く滿足とする所であります、就ては正直が半面に從事して居る此大日本蠶絲會が如何なる歷史を有し如何なる事業を經營しつゝあるかを諸君に告白し而して今日蠶絲業の發達は最も國家の急務なる所以を陳述しようと思ふのである。

大日本蠶絲會の誕生したのは今を去る十數年前であつて相應に年齡を重ねて居るけれども世人に知らるゝことは少かつたのである、又知らしむるの必要も多くなかつたのであらふ何ぜなれば蠶業講習所を修めた人や、農科大學を出た人や、親ら蠶絲業に從事して居る人達の會合であつて言はゞ一種の同窓會樣のものであるから經濟も極めて窮屈に、這入た丈の金を以て會報の編纂其他の事業を賃素に經營して來た、故に多少の未納會費はあるにしても全體の經濟に影響する樣なことはなかりし樣に思はる、其後數年前此會の幹部の者が擔宅を訪問して是非會頭になつて貰いたいと云ふ要求をした、けれども正直は蠶絲業に就て專門の學藝を修めたものでもなし、又蠶絲の生產に從事して居るものでもない、夫れで一應は斷つた、所が其者の云ふには貴下が蠶絲業者でもなく又斯道の學者でもないと云ふ事は素より承知である、けれども貴下は豫て蠶絲業に嗜好を有せらるゝことも聞てゐる、然るに大日本蠶絲會は蠶絲業者唯一の團體であつて本業の發展に大に貢獻する考であるが何分微力であるから是非會頭となつて指導して戴きたいと云ふ譯で、之に對しては正直も詳退するの言葉を見出さなかつた、夫れで希望に應じて會頭となつた所が會員も年一年に增して七千人以上となり、經營の方法も極て著實で毎年若干の金を餘すと云ふ有樣である、それから

以蚕世業の上に、進捗し、蚕業に連絡し、蚕業と連絡し、蚕業に関係ある者と氣脈を通じ、以て世界の學者と共通し、事に努め、以て進捗すべきものである。

然若害て、會報の安慰を希望し、知名の學者、其實業者は、熟も好て通利の差異を、大日本蚕絲會は、伊國の蚕業者として、居る。

利の差異を、自分の蚕業に、次に、居る。

如は、自分の蚕業に、次に、居る。

學の教授佐々木博士を、大日本蚕絲會の蚕業者として、居る。

常に、日本に、好て通

學の教授佐々木博士を、大日本蚕絲會の蚕業者として、居る。

常に、日本に、好て通

足の「ホ」で直に、「ホ」の「ホ」で直に、「ホ」の「ホ」で直に、「ホ」

る。同様である。又桑園一反の收繭量百五十貫、蠶種、枚の收繭六、九五、五、五、貫、繭一升の繰糸量九、九、七、五、五、貫である。今之を改良して桑葉の收穫を二百五十貫に迄、收繭量を二、五、五、貫に迄、繰糸量を一、七、五、五、貫に迄増加する譯である。之を事者實驗家の說に徴して至難とは云はないから是に倣うても亦一段以上の産額を增加する譯である。果して然らば玆に又日本なる新蠶業國を現出することゝなる。現今海外に輸出する生絲類九、五萬圓、絹織物類四、千萬圓合せて、一億三千萬圓である。之を事者實驗家の說に倣うて、各二倍の産額を加ふるとら桑園の增殖と業務の改良によりて、三億九千萬圓の輸出額となる割合である。更に假定されば、三億九千萬圓の輸出額の五割丈增加するものと看做すも六、五百萬圓である。から外債の利子を仕拂ふて餘ある譯である。實に正直は蠶絲を措て他に適當なる財源を見出せぬ、是れ日露戰爭は内部に於て蠶絲業を發達せしむるに餘儀なき動機を與へたと云ふ所以である。

謀の勝敗は、兵の強弱、國民の全般の服膺すべき千歲不磨の格言である。國民の氣魂は、國力疲弊する時は、國民の氣魂は、國力の如何に關する。故に國民たる者は、國力の如何に關する。故に國民たる者は、國力の如何に關する。故に國民たる者

は勿論であるが、更に角施肥を潤澤にして多少補給の效のあるは疑なき所である。殊に本年は必ず赤年ようなる多く夏秋蠶の飼育せらるゝ方も多いであらふが、こゝが誠に大事な所で、本年は此夏秋蠶を以て幾分か春蠶の收穫の不足を補ひ得るとしても、其事は又必ず來年に及ぼねで本年の如き桑の欠乏を訴ふることなしとせぬ、茲に於てか彼の群馬埼玉兩縣の如きは夏秋蠶の飼育者に對して一片の勸令を發せられ、殊に群馬縣の如きは之が期限を立てられたのである。其期限は、

桑園一反多に與て蠶種は半枚（蟻量一匁五分）以下に止むること。

收繭の程度は可成力言ジヤミ拂ひに止め（根際の小枝を採ること止むを得ざれば業根を銀杏形に殘して採るを可とするも尚ほ掃立の際に採取せる葉より以上を採らざること。

肥料は常に興ふる分量より其收繭の價の三分の一以上を餘分に施すべきこと。

右の如き意味の期限である、此御注意は恰も慈母の赤子に於けるが如き赤誠より發せられたものて洵に御親切なる御趣意、最も必要の條件と云ふべく、吾々常業者に取り眞に感佩の至りに堪へぬ次第である。ドウカ差當り夏秋蠶を飼育せらるゝ方に於て何も番此思召を以て御從事下さらなら、自然本年に及ぼす所の影響も輕減すること得て、再び本年の如き大欠乏を訴ふるの虞なきに至るであらふと思ふて今より喜び居ることであるが、

桑を栽培して收め得らるゝだけの利益は大に收むるやうにしたいものである、從て夏秋蠶專用桑の設備は實に刻下の急務である。

然て其專用桑には何が良い、かといふに、先年來山形縣下より行なはれ出したる魯桑の實生が最も好適のものであると思ふ、元來魯桑は一時墨桑の名を得たこともあつたが葉肉の厚いのが特徴て、其葉質はと云ふと先年西ヶ原に於て試驗の結果を公にせられたるが如く、飼育上の結果と云ひ、分析上の結果と云ひ、至極良好にして殆ど彼の山中高助と彷彿たるものである、デ墨桑の名は事乃彼れに取て寃罪て決して惡いところではなく、只其用ひ方の惡かりしが爲めに不結果を得た者が多かつたので其罪は事乃飼育者其人にあるのである、所で其實生はドーかと云ふに親木が曾て墨桑の名を得たる主因となせる葉肉に大に薄らきて、光澤良く葉面の滑かなる葉質の軟弱なること親木と同樣て久しきに亘りて硬化せぬ、從て夏秋蠶の飼育には至極良好のものである、素より實生のことであるから其繁殖も至て速かで播種の初年に在て尚三四尺の高さに達し、之を密植する場合には翌年移植して直ちに其葉を採ることが出來る、一年間を置けばソレ丈け壽命も長く四五年の後には收繭、反多にて三四百貫目を獲る迄に至る、桑樹の速成法古來なきにあらねど此の右に出るものは美し無からふと思ふ。

而して其栽植方は彼の長野縣下に行はれつゝある夏秋蠶專用桑の栽植に似ふて宜いのである、尚此魯桑の實生を以て其慾望を充たすに適して居る、現に或る地方の如きは之を以て盛に春蠶を爲しつゝあるが其結果亦至極良好である、但し此に注意を要するは其種及其苗の撰擇である、此實生の始て栽植せらるゝに至りたるは山形縣下で去る二十七年のことであるといふが稍世に知らるゝに至りたるは三十四年此方のことで、爾來風縣下より宮城、福島の各縣に擴まり近來彼に各方面に行はれ出せしより遂に需要供給の權衡を失して大に種苗の恐れを訴へ、從て雜種の恐れあるものも出れば其しきは異種の實を採り或は苗を取て魯桑の實なり魯桑の害生なりと稱して販賣する者もあるよしなれば、此撰擇には殊に大に注意を要せねばならぬ。

考に供せらるゝ。

尚本年桑葉の欠乏を來せる原因の一として見るべきものの今一つは地方により自家に桑園を有せずして而して養蠶に從事する者ある即ち是れである。此際は養蠶の盛なる地方程多し、斯業の安全の上から觀れば素より此の如き者の絶無を望むのであるが、左りとて其人々の經濟の上から見ると時に非常の失敗を招くことのあるにもせよ、時に又大なる利益を得ることもあるから廢めるようとて廢める譯のものでない、といふて此儘過ぐせば又本年の如き不幸を見るの虞なしとせず、旁此所は一番考ひものである、思ふに何處如何なる地方と雖も必ず〳〵桑を植ゑべき餘地は幾何もあるから、成るべく有志の方々に於て豫め是等の必要に備ふる所の桑を仕立てられて如何である、ソレモ根刈又は中刈の樓なくばこの時に ムムザザ刈り拾てねばならぬやうな困難もあらうが高刈

絶對に可とする譯ては無い、同縣の御趣意も亦止むなく此數に止められたのであらうと思はる、元來雲を突く程の喬木ともなるべき桑なるに、春一回收繭すら天然の成育を全ふすることの出來ぬの始末、加ふるに夏秋蠶を飼育すると云へば尚再三收繭するに於ては無論其害は免れぬので、桑の生理上から云へば成るべく採らぬが宜しいのである、止むを得ず採るにしても採り方の少い程宜しいのであるから、ドウカ幾重にも此心を體して必ず不相當の飼育をせられぬ樣偏に祈る所である、トいふて夏秋蠶を營むものは何時が何時まても此の如くすればそれて宜いと云ふ次第ては又ない、既に彼の纖記には蠶蠶を禁じてある位て、即ち昔者聖人之を禁じられたのである、デ其註に蠶は再三なりとあつて即ち今云ふ所の夏秋蠶を禁じられたので、尚其註に來る者は皆此夏秋蠶の害を絶叫せられた、今尚絶叫しつゝある方もある位である、ではあるが夏秋蠶の流行は實に大河の決せるが如きもので、今に於て之を禁示せんとするも到底不可能のことである、寧ろ之が飼育は勢に任じ豫め之に伴ふの害を防ぐの勝れるに加かずである、後世恐るべし、今や夏秋蠶用桑の栽培法のあるあり若し彼の聖人をして今の世に在らしめたらんには禁ずるどころか、反て夏秋蠶の害は夏秋蠶其もの[illegible]に人を貪ぼらるゝ前に[illegible]抑も夏秋蠶の害は夏秋蠶其もの[illegible]にあるにあらず、云へる通り爲めに桑を害して有蠶の元資を減耗するの恐のあるから、桑をすら害せざれば夏秋蠶は寧ろ勞力の分配に於て將其收利に於て決して忌むべきものでない、追々專用

に仕立て、ばけば左程な困難はない、必要のなきときは其儘捨て置て何時でも必要の生ずるときまで繁茂に任せて置けば樹勢盆加はりて結局桑主に於て損失は無い譯である、自然又桑主と飼育者との間に何分の約束の出来て毎年需給の權衡其宜しきを得るやうにならうならば尚更結構である。

今一つ此桑不足の原因として見るべきものは、不釣合の養蠶をなせるものある即ち之である、左ふるに本地は處により時局倘と唱へて特更に多量の毛蠶を撞下しか尚もある趣きであるが、大凡そ養蠶は如何に熟練なるものと雖も飼育上の釣合にして其宜しきを得ざれば結局收利の圓滿を期し難いものである、就ては不及ながら養蠶の普及を圖らう爲に、小學生徒に養蠶の思想と智識とを容易く注入しやう爲めに此頃公に史る拙作養蠶唱歌中右に關する趣意をも歌ひ置けるにより序ながら御披露致さう、但し此唱歌は今發生した毛蠶を見て喜び且掃立の注意を與へたものである。

出たかよく出た　よき毛蠶よ　そちは今年の福の神　無事をいのるぞ　わづらふな　いさに羽ばきて　桑やらん。

多く羽ばくな　慾ばるな　桑のとれ高　よくつもり　家にあまらぬ　ほどを見て　手にもあまらぬ　ほどにはけ。

是れは是れ實て私が各方面に於て屢々唱ふる五衝の旨意を歌ふたもので、蠶と桑と家と人と蠶具との權衡其宜しきを得ざれば決して圓滿の收獲は期し難いといふことを示したものである、將來ドウゾ此點に充分の注意を拂ふて成べく毛蠶の方を割合より少し寡い位にして充分其心を籠めて養て貰ひたいい、當業者諸君の損益許りてはない實に國家の爲めである。

次に本年收繭の絲目の少いと云ふのはドーしたと譯であらう。

ふが、前述の通り桑は即ち絲、絲は即ち桑であって此絲たらしむる天工の紡績器械の如きものであるから、桑の後身は絲、絲目の少いは無論第一給桑の不足に原因したであらふ、而して其給桑をして少からしめた所以のものは即ち天候に在つたに相違ないが、蠶室は即ち蠶に取ての一小天地、吾人は即ち其主宰者言はゝ天御中主命であるから、天候はヨシ如何にあらふとも彼れの責任を充たすに於ての手段は幾何もある、ドウゾ將來是れは大に研究を願ひたい、第一に即日の成功は成功しかねるが、即ち「法」は宜しきを得ざりしが爲めの解舒の惡かりしこと即ち是れである、ら、と思ふ、ト云ふものは古來の習慣として疾陰なる錢に多數の蠶を容れ、ト疾陰なる上蔟室に多數のエビラを容れ、其だしきは之を重ね掛け、尚狭い周圍を密閉して、空氣の流通の圓滑を欠けば欠く程繭の解舒の惡いものである、殊に本年の如き天候に際して其の害最も著しきものである、論より證據晴天の時に當て成繭せるものと雨湿の時に際して結繭せるものとは其繭の品位に於て將其絲の解舒に於て霄壤の差異のあるは當業諸君の熟知せらるゝ所、之れ即ち自然の示せる眞理である、此眞理に戻らざるを眞の上蔟法となす、即ち熟蠶入蔟の數は成るべく少きを可とし、エビラは必ず一枚指しにして空氣の流通をして滑かならしめ、時に或は火力を用ひ湿潤の際は乾燥に勉め、寒冷の際は温暖に力むるが專一である、此事に付ても又唱歌として作つたのを御參考までに申上げて置かふ。

今日は天びけ　おこたるな　いはば仕上の　ときなるぞ

そこらかたづけ　朝あけて　蔟はこべや　ひまとるな。

はやうひろうて　すく上げよ　ゆびり重ねぬ　よーにして

間すかして　氣をぬきて　温氣のこもらぬ　よーにして。

ドーゾ將來は是非共コー云ふ風に御注意を願ひたい、左すればヨシ今後又不幸にして本年の如き不良の天候に會するも決して本年の如く解舒の惡しき繭を收むるの不幸を見るなからん、此一事のみにても當業者の損得は大したものである、養蠶熟練の地方に於ても又是等種々の課題の爲に收利の圓滿を欠けるもの、多きは從來大に遺憾として居る所である、所謂兩陣て地堅まる、本年の雨は殊に斯業に於ける有らゆる誤謬の砂を洗ひ流し眞理の黄金の燦然光を放ちつゝある今日、何卒此眞理の有る所に從て將來再び今年の如き失敗を取らざる樣切に希望する所である。

尚序ながら近來迎ふ共同桑の行はるゝ樣になれるは斯業の爲めに喜ばしき現象である、がまだ今日の處充分普及を見ざるは甚だ遺憾なる次第で、此共同の行はるゝと否とは斯業上の收利に於て實に非常の差違があるものであるから、彼の共同蠶種購入を始めとして共同蠶貯蔵より進て共同稼蠶飼育を行ひ、同教師の監督の下に完全なる飼育を遂げ、尚其收繭の殺蛹をも共同して之を行ひ、更に進ては其繭の共同販賣を爲す等、地方の狀況により出來得べき丈け共同事業の發達に力め、獨が上にも收利の圓滿を期せられんことを誠に希望の至に堪へぬ。

會員　江藤直四郎

雅樂三州風實　清時不許經營錄
詩看鶴洞鶯明鏡　水質透鑑酒九天

終もに臨んで今一つ希望は養蠶教育の普及である、現に今回の巡回中前後共二回事業の外、蠶業學校の設けある所又は農學校其他に於て蠶業教育を行ふ所の有る所、或は蠶業短期講習の行はれて居る所、或は蠶業失敗者の多き所、或は萬綠叢中紅一點とも云ふべき程際立て其結果極しく良なる位の所、或は萬綠叢中紅一點とも云ふべき程際立て其結果甚だ見るべきものあるから、願くは將來凡ゆる方面に於て蠶業上に於ける智識の發達の所に現物に於ては無論のことあるから、願くは將來凡ゆる方面に於て蠶業上に於ける智識の發達して養蠶教育をなすべきは無論のことあるから、願くは將來凡ゆる方面に於て蠶業上に於ける智識の發達して國民教育中養蠶の一科を加ふべき筋の注意を煩はしたい、隨て

膿蠶研究豫報

技藝委員
理學博士　佐々木忠次郎

膿蠶の病原に就きては諸説紛々其歸するところを知らず、然れども大別すれば左の二説に過ぎず、最下等の動物の寄生を以て膿蠶の原因となし、膿蠶の病原は寄生動物に非ずして蠶の不熟種等に依り膿蠶を發生するものとせゝ、吾輩第二説の主張者なり。

最下動物の寄生を以て膿蠶の病原なりと決定したる者は、膿蠶の體内に存する多角體を以て一種の胞子見做し、且此胞子の發育の狀態を示し、或は單に膿蠶の膿汁を撮り之を健蠶見に傳染せしめ膿蠶を出だせるを見て膿蠶は傳染性の蠶病なりと云ふに在るが如し。

余は從來膿蠶の非傳染說を稱道するものにして近來再び膿蠶の研究に從事し、膿蠶は果して傳染性を具へたる最下動物なるや否やを調査したるも、未だ彼の多角體なるものは胞子蟲類の胞子たるの確證を得ること能はず、今試みに膿汁を撮り之を健蠶見に傳染せしむる時は常に多少の膿蠶を出すことを知れり、然れども此等の膿蠶は單に膿汁内に存する多角體の所爲に依て發生するものとなす可らず、如何となれば膿汁中には必ず一種の球狀菌を檢出するものなればなり、此球狀菌が膿體に寄生する時は蠶體の組織に一種の變化の廢起し依て以て多角體を產出するものならんとの觀念を抱きたり、故に余は膿蠶より膿汁を撮り純粹培養を試みたるに常に一種の球狀菌を得たり、此球狀菌を健蠶見に傳染したること既に六七回に及びたるに毎回一の成績を得たり、此球狀菌を健蠶見に傳染したるに毎回一定の右球狀菌

（蠶の幼老と溫度に關係す）を經過すれば舊頭部の上部に三角形（第二圖の二）を參照すべし）を爲して淡褐色なる新頭部の成生及より凡そ二時間を經れば前驅第二環節より第三環節の終に至る背面に瑠璃形に黃白色の部分を生じ、白色部は灰白半透明の觀を呈し、頭部は赤褐色となり下半驅は黃褐色に變ず、之より漸次體驅黑褐色に變じ新頭部全部透視する頃に至れば當さに黑褐色に變ず、此間即ち新頭部透視の始めより全部透視せべは約五時間内外を要するものとす。

就眠より凡そ二十時間内外にして舊頭部と舊皮膚の境點に一條の黑線を続らし、舊頭部は更に前方に懸垂す、又此時に至り氣門の周圍には淡黃、外輪は黃褐色を呈し、内輪は淡黃青色の輪線を生じ、漸く二重輪を畫し、内輪は淡黃、外輪は黃褐色を呈し、其周邊墨色を散らせる如く周邊を遠ざかるに從て淡し、思ふに外輪は新成氣門にて内輪は舊氣門ならん。

催蛻　漸くにして二重輪として現はれたる氣門は途に合して同一線となり、廣き線線と成り、鬣に淡黃なりし内輪は單に斑點を示すに過ぎざるに至る、是蓋し舊氣管蛻出の徴を現はしたるものにして同時に體色に變化を來す、即ち十二環節及尾角は濃黃色となり、尾端より漸次皮狀運動を始む、此運動は新舊兩皮間の分離を促し次て體驅を外皮の前方に進行するものなり、故に宛然背脈管の鼓動の頻繁なるに似たり、斯の如き運動を頻りに爲すと三十分乃至一時間にして體驅前進すると同時に先づ第二、三、四、五、氣門よりの舊氣管の脫出を始め體の兩側に一條の黑線を引きたるが如き狀を呈す、此時に至るも尙運動止まざるを以て體の前部は非常に壓力高さり第四圖に示す如き狀態となる。

第四圖　蛻皮せんとする蠶（自然大）

第五圖　眠蠶頭部の横斷

即ち（イ）は舊外皮にして（ロ）は新成外皮なり、蠶見の際に蛻皮せんとするに至れば體皮組織の上面新に「キチン」皮を分泌搆成し舊「キチン」皮を外部に壓出し、新外皮の上面には一種の滲透性液體を分泌し舊新兩皮の分離を促し愈て蛻皮を容易ならしむるの作用をなす、蛻皮後蠶體の胴ふくは該液の存在にして後白粉を散布したる如き觀を呈するは蓚酸石灰等の結晶なりとす（ニ）は該結晶を示したるものにして此結晶は蛻皮後摩擦の爲め容易に蛻落すと雖も、皮膚の由所（筋肉の附着點の如き）には尙ほ久しく之を認むるを得可し、而して此液體は新外皮搆成以前體皮組織細胞の分泌に係るものにして背皮腺及胚叉此作用を爲すものならん。

予は更に進んで將に蛻皮せんとする蠶兒の頭胸部を縱斷して蛻皮中内部に起る變化の一般を調査せしに第六圖に示すところの如し。

蠶の蛻皮の行はるゝ部分は胚子發育の際外胚葉より形成せられたるところに起るものにして、即ち頭部及皮膚の外皮、食道及腹の外皮氣管、絲腺及唾線の導管マルピギー氏管等是なり、今圖に就て頭胸部に起る蛻皮の有樣を見るに、體皮組織細胞は大に增殖して皮狀を爲して皺を生じ、殊に脚及第一環節の背部に於て甚し、食道の蛻皮は獨立して行はれ之れが脫出は（カ）に依て示せり、絲腺導管及唾腺導管の脫出は（ヨ）及（タ）に依て示せり、而して新頭部の生成は（ヲ）の間にありて平常は（ヮ）に示す如く第一環節の皮膚は顎頭板の末端に附着して頭部を三分の一位覆ひ居るものなれども、此除裕を新頭部生成の際に伸長するものなり、故に新頭部全く生成するに至れば舊頭部は圖の如く前方に突き出され途に懸垂するに至るものなり。

第六圖　眠蠶の頭胸部縱斷

氣管の脫出は世人の知る如く氣門よりせられ、接合部の分離は灰白部よりするものなること固よりなり、（ヮ）は氣管脫出の狀を示せるものなり。

蛻皮の狀態　蠶體頭部に波狀運動を盛擡し體驅を舊皮内の前部に進め、爲めに舊皮の前部緊脹膨大し第一環節の兩側に有する八字形の皺伸張し、新皮の第五環節斑紋が舊皮の第四

環節に至り恰も四五兩環節の背上に同一紋を現はしたる頃に至れば直ちに舊外皮と舊頭部の分離を爲す、此分離は實に瞬間の速力にして直ちに新頭部を脱出す、夫れより第一環節を脱出す、而して脱出の方法に種々あり、新頭部の齲頂間板の上面にある舊皮（即ち舊頭齲頂板接合部の上部）漸時にして齲頂板縁に沿ふて分離するあり、（第七圖の一）或は單に背面齲頂板と皮膚の境線より規則正しく分離し後下側分離するもの、（此分離法最も普通なり）或は頭部の腹側先づ分離するもの、（第七圖の二）此分離法にて行はるゝときは背面の皮膚は尚ほ附着し其儘體を前進するが故に、舊頭部を冠りたる儘新頭部を共に上方に釣り上げられ（第八圖の二）暫時にして張り

第七圖

頭部と皮膚分離の點を示す

（一）背面より分離
（二）腹面より分離
（三）分離せる頭部
（イ）分離線
（ロ）食道舊外皮脱出

頭部の分離すると同時に第一氣門及遠化氣門より氣管の脱出を始め、第一環節は容易に脱出するも第二環節の膨脹部に至りて大に困難し、舊皮口の狹き爲め是に於て兩側失笠形に裂くるを普通とす（第八圖の一）又前述の如く腹面より分離して頭部を舊皮の爲に後方に引き張らるゝもの（八圖の二）十中二三を見る、稀には兩側裂けずして脱皮するもの（九圖の三）あれども甚た少し、第三環節の脱出は他の部分より稍長時間を要す、第七環節以下の氣管の脱出は第三環節の蛻皮と略ぼ同時に流星の如く瞬間に蛻出するなり、是蛻皮の際第九環節の前驅のみ重に動搖し從て前驅の舊皮は後驅に進むも腸管外皮の蛻出に困難するか故なるべし。

將に蛻皮了らんとするとき尾端と舊皮の分離に注意するときは容易に腸管の脱出を認め得るなり。又俗に椀冠りと稱し

第八圖

（一）舊外皮裂
（二）齲頭板の上部より分離し舊皮の兩側裂けたるもの
（三）齲頭板の下部より分離し頭部引き上げられたるもの

新頭部の先端に舊頭部附着して容易に脱落せざることあり、是を精査するときは食道の外皮脱出に困難を來したるものなるを知り得べし。

第九圖

（一）落ぜし頭部に食道外皮の附着せるもの
（イ）脱皮中のもの
（ロ）脱去せし舊外皮
（二）舊外皮の附着せるもの

氣管の脱出（食道上に氣管を見て示す）

第十圖

イ　灰白部
ロ　舊氣管
ハ　新氣管

を要するものとす。

蛻皮を了りたる蠶兒は頭部淡褐色を帶びて膨大し、第一より第四環節までは稍黄色を呈し第五環節以下は黄褐色を帶び頭部を擡げて静止す、而して第五眠に於ては蠶の種類に依り或は茶褐色をを帶ぶるあり又は青褐色を呈するあり。

幾蛻静止中頭部は漸次灰黒色となり次に黒褐色となりて食慾を生ずるものなり、蛻皮後食慾を生ずるまでの静止時間は固より溫度の高低と濕氣の多寡に依りて異なるも又各齢に依りて大差あるなり、以下催眠、波狀蓮動、蛻皮、静止等の時間の詳細を春秋蠶各齢に就て調査せるものを表記すべし。

（未完）

軍人の家族製絲工女となるを見て

會員　佐藤雅山

ますら夫が、彼の滿州に押し渡り
露助懲すは國の爲め、殺る妻子がネー、
絲繰るも同じ君の爲めサノサ

工女とて、決して輕蔑するべきはいよ、
か弱き手で繰る細絲も、國の命をネー
髮ざ行き光りゐ世界に輝かすサノサ

製絲用水質撰定の必要に就て

特別會員
農學士　中村雅次郎

製絲工場の位置を撰定するに上に必要なる條件は色々あるが水質撰定と云ふことは確かに其重なるものゝ一だらうと考へる、然るに水に就ては其便利ある場所即ち多量の水を得らるゝ位置の撰定にのみ專ら重きを置て肝心な水質に就ては充分なる調査を遂げないものがある、之れは甚だ遺憾で甚しきものは全く無頓着な人さへ往々ある樣に思はれるが之は容易ならざる事と考へる、故に之に就て少しく述ぶることにしよう。

申すまでもなきことだが水と云ふものは色々な物を溶かす性質を持つて居るからして河水、井水、泉水等總ての天然水中には種々樣々なものが溶けて居る、此ことに就ては既に昨年六月發行の當會報に於て製絲用水なる題目の下に述べたる如く、天然水中には必ず多少の鐵、礬土、石灰、苦土、硫酸鹽、鹽素、有機物等を溶解して居る、又之等の含有成分が或極量以上に超過した場合には製絲上不適當なることは本多農學士の實驗に徹して明瞭である、されば製絲用水として出來る丈之等有害成分の少きものを撰ばなければならぬ、然るに此極量は何れも少量なるが故に含有成分が悉く極量以下にあるものは悲しい哉天然水中には極めて稀れである、今之が例證として二三成分の極量を抄錄し併せて余が分析した水に就て一二を記載することにしよう。

第一表

一	石灰鹽類の極量（水十萬分中）	
鹽化石灰	五、〇、	石灰に換算すれば　二、五強
硫酸石灰	一〇、	石灰に換算すれば　四、一弱
二	苦土鹽類の極量（水十萬分中）	
鹽化苦土	一、	苦土に換算すれば　〇、四一強
硫酸苦土	五、	苦土に換算すれば　一、六五弱
三	鐵鹽類の極量（水十萬分中）	
硫酸鐵	〇、一	酸化鐵に換算すれば　〇、〇五弱
硫酸鐵	〇、〇一	酸化鐵に換算すれば　〇、〇五弱
鹽化鐵	〇、〇一	酸化鐵に換算すれば　〇、〇五弱
四	礬土鹽の極量（水十萬分中）	
鹽化礬土	一、〇五	礬土に換算すれば　〇、一九強
硫酸礬土	五	礬土に換算すれば　〇、四一強
五	有機物質の極量（水十萬分中、〇、五）	

第二表

	石灰	苦土	酸化鐵	礬土	有機物
東京鐵道部所淀舟水	二、〇	〇、〇七	〇、〇六	〇、〇七	〇、〇七
信州松代六文錢用水	二、〇	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七
同　小錢錢用水	二、〇	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七
富岡製絲場用水	二、〇	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七
靜岡縣磐田郡製絲場用水	二、〇	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七
宮城縣松山水屋製絲分工場用水	二、〇	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七
同　仙臺片倉組依賀分柄水甲	〇、〇	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七
同　乙	〇、〇	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七
福島縣喜多方町製糸合資會社用水	〇、〇	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七
千葉縣佐原町松信合彌依賀分柄用水	〇、〇	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七	〇、〇七

備考　前表の數字は水十萬分中の含有成分にして△印は化合狀態の如何によ

り或は極量以上とも見ることなき得又以下とも見ることなきるもの×印は極量以上のもの

前表によれば含有成分が悉く極量以下にあるものは少くとも以上十種類の水の中には一もないことが分るであろう、同時に又水の出る場所が異れば各成分の含有量も差點があることが判然するであろう、之を要するに斯の如く天然水中には含有成分の量も異り其上含有量が多い程製絲上不良の結果を生ずるが故に、製絲工場の敷地を撰定するに當り先づ其地の水質を鑑定しなければならぬことゝ考へるのである。

是は單に文字の上より論じたことだが實際に水質が不良であつた爲め絲の色澤品位等に著しく影響を及ぼした實例の一二を擧げて見よう。

昨年九月余は公用を帶びて宮城縣に於て二三の製絲場を視察したことがあるが其内で一つ述べたいと思ふことは、同縣下志田郡松山にある古川米屋製絲場分工場に於て用ひつゝあつた用水が甚不良であつた爲め、糸に赤味を帶び色澤品位等が著しく劣等になつたことである、聞く處によれば同場は余が視察する僅かに一ヶ月許前に釜數を倍增した爲め、從來使用しつゝあつた井水丈では其不足を告げたが故に、新に鑽井を設けて此水を重に使用することにしたとのことであつた、然るに該水の中には甚柔かい且つ細かい淡黃褐色の固形物を含有して居て、此固形物が繰絲中絲に固着したが爲めに絲が甚しく品位等の劣惡のものになつたのである、此固形物は水を吸上げて後一兩日放置すれば沈澱すれども、水面を少しく動搖すれば直ちに再び浮上がつて來る、濾過紙を用ひても悉く除き去ることが出來ない程細かいものであつた、此固形物を分析して見たところが重に礬土の複硅酸鹽類と少しの鐵複硅酸鹽類とより成立つて居ることが分つたと同時に、該鑽井の下底は粘土質の如きものならんとの想像を下すことが出來た、今左に該鑽井水の分析表を掲げて見よう。

臭	微臭
味	無し
清濁	濁
反應	酸
浮遊物	〇、三〇（水十萬分中）
全乾固形物	一〇、三〇
鹽化鐵	〇、九二（同上）
礬土	二、六二（同上）
石灰	二、一三（同上）
苦土	一、三九（同上）
硫酸	一、五二（同上）
燐酸	七、三六（同上）
鹽素	〇、六九（同上）
有機物	三、五五（同上）

即礬土硅酸及鐵の甚だ多い水であつて申すまでもなく製絲用水としては其だ不良のものであるが爲めに絲の上に明かに其結果を及ぼしたのである、同場は其後驅露濾過を施して用水の改良を計りたる結果、其弊害の幾分を除き去ることが出來たとのことであるが、元來の良水に改良を施したものとても及ばないことは申すまでもないことである、今一つの實例は本年六月下旬に本年新設された赤羽製絲場（停車場附近）よ

り水質不良の爲めに色澤絲質等著しく劣等に陥りたればとて該製絲場に於ける常用井水と隣家井水と附近の河水との比較分析を東京蠶業講習所に願出になつたからして、余は之が比較定性分析を試みたが次の如き結果を得た。

只(常用井水)		乙(隣家井水)	
反應	微酸	反應	微酸
臭	無臭	臭	無臭
濁	濁	濁	濁
土	少なし	土	少なし
硝酸	×多	硝酸	×多
硫酸	×多	硫酸	×多
苦土	多	苦土	多
石灰	多	石灰	多
鹽素	多	鹽素	多
鐵	微少	鐵	微少
有機物	×多	有機物	×多

甲水は硬水なるが上に有機物及礬土多きが故に、乙水は甚だ有害なる鐵多きが故に、丙は鐵、有機物多きが故に甚しく不良の水質たることは免かれない、故に絲が著しく不良になつたのである、此水も亦改良を施せば幾分か良好にはなるが元來の良水には及ばないことは明かである。

○水質の良否は使用する結果、絲の良否に影響する事は要するに不良の水質は明かに是等の物質を含むものであつて、向此他に於ては一二に大關係を有するとは雖も亦水質の良否は絲の上に大關係なりとは言はれぬ事柄なりとは言はなければならぬ、されば新に製絲場を設立する際には必ず先づ其地の水質の良否を調ふるの必用があると論ずるのである。

天蠶及柞蠶絲に就て

通常會員　松下憲三郎

人の嗜好は時代の變遷と共に推移するものにして殊に人生の最大要素たる衣服に於て其の尤も著しきを見る、宜なり織物の意匠染色の模様等刻一刻に嚴新にして奇拔なるもの盛に賞揚せらゝ事や、是れ流行の免かるべからざる所以にして吾人の多くは是に向て多大の資費を支拂ひ爲に幾多の辛勞を購ひつゝあり、實に氣の毒の感なきにあらざるも人情の然らしむる所又止むを得ざるならんか、從て衣服の原料たる織物の纖維に向て人の嗜好に適する要件を滿足すべく之れが改革を求むるに至れり、然りと雖も衣服の原料として貴ぶべき織物纖維の通有性は左の數項に過ぎざるなり。

一、寒暑を防ぐべく熱の不良導體なる事。
二、比重及容積共に小にして着用に輕なる事。
三、强伸力豊富にして保耐久なる事。
四、纖度均一にして染上艶麗なる事。
五、色澤佳良にして容易なる事。
六、衣服の日的に應じて寒暑を凌ぐべく、最近の統計に徴するに其主として清國より輸入を仰ぐべく、最近の統計に徴するに其の輸入額數量に於て四十萬斤、價格に於て百餘萬圓の多きに達せるを見る、然り而して天蠶及柞蠶絲の繰絲、漂白、染織の術近時漸く一大發展を見るに至りたるが故に、其の需用は年歩々增加の傾向を示し向將來益々盛んなるの傾あり、天蠶及柞蠶絲の生産豊急せざるべからざるなり。

從來天蠶及柞蠶に關し調査したるもの尠なからずと雖も、中村農商務技師は先年深く之れが調査をなし、本會報紙上に連載して斯業の奬勵に勉められたり、予も亦之と同感を有するものなるを以て此の點に就ては重ねて之れを謂ふの必要なし、然れども只我が蠶絲業者諸君に向て一言を呈せんとするものは。

一蠶絲業の範圍を一層擴張し適當の地には天柞蠶の飼育並に製絲の事業を興すべし。

と云ふにあり、由來吾國に於ける天蠶及柞蠶業は其の起原頗る古くして爾來連綿として行はれつゝありと雖も、事業甚だ萎微として振はず只信州の一部に限られたるが如きの感あるは土地氣候其の他の事情之れが不振の原因をなせりと雖も、主として製絲方法の困難なる之れが最大なる原因をなせるが如し。

天蠶及柞蠶に就き予が信州地方に於て調査したる一節と、聊か得たる經驗に就き少しく之れを陳述して斯業發展の資料に供せんとす。

（未完）

屑せざるべからず、此等四種のものには皆各特性あり、共に衣服の原料として滿當なる資格を有す、是等の點に向ては予は爰に詳說するの要を認めず、然りと雖も蠶絲が他の種の繭繊維に比べ優りたる特點を有する所は特筆大書せざるべからざるものあり、何ぞや曰く。

一、微妙の音響を發する事（所謂絹光澤を有する事）、

二、美麗なる事、

三、是蠶絲特有なるものにして吾人の嗜好を滿足せしめる事、

人に要せらるゝ事到底他繊維の遠く及ばざる所なりとす。

天蠶及柞蠶絲は準絹絲の一種にして昆虫學上鱗翅目（Lepidoptera）蠶蛾類（Bombicina）野蠶蛾科（Saturnidae）天蠶蛾科（Antheraea）に屬する昆虫によりて吐絲せらる、天蠶は其の學名を（Antheraia Pernily Guer）と云ふ、此の三蟲は其の變態、習性等頗る家蠶に酷似し其の生絲又蠶絲と略均しき性質を有す、唯蠶絲固有なる音響柔しき色の純白ならざると異なるのみ、然りと雖も近時學術技藝の進歩に伴ひ完全なる漂白の方法によりて殆んど天及柞蠶絲に染色を行ふ事を得るに至れり、愛を以て天及柞蠶絲固有の絲性なる絹の光澤の美妙の音響とを兼有し人造絹絲若しくは他の動植物繊維の遠く及ばざる所なりとす、されば吾國著名の蠶業地殊に京都西陣、群馬桐生、愛知、廣島地方等に於ては絹織交織の絹絲代用、若しくは厚地織物の緯絲代用絹絲として多く用ひられ、近年頗に之れが需用額を增加せり、而して之れが供給は内地に於ける生產地長野、茨城、廣島等の地方より輸入を仰ぐべく、最近の統計に徴するに其主として清國より輸入を仰ぐべく、最近の統計に徴するに其の輸入額數量に於て四十萬斤、價格に於て百餘萬圓の多きに達せるを見る、然り而して天蠶及柞蠶絲の繰絲、漂白、染織の術近時漸く一大發展を見るに至りたるが故に、其の需用は年歩々增加の傾向を示し向將來益々盛んなるの傾あり、天蠶及柞蠶絲の生産豊急せざるべからざるなり。

從來天蠶及柞蠶に關し調査したるもの尠なからずと雖も、中村農商務技師は先年深く之れが調査をなし、本會報紙上に連載して斯業の奬勵に勉められたり、予も亦之と同感を有するものなるを以て此の點に就ては重ねて之れを謂ふの必要なし、然れども只我が蠶絲業者諸君に向て一言を呈せんとするものは。

一蠶絲業の範圍を一層擴張し適當の地には天柞蠶の飼育並に製絲の事業を興すべし。

と云ふにあり、由來吾國に於ける天蠶及柞蠶業は其の起原頗る古くして爾來連綿として行はれつゝありと雖も、事業甚だ萎微として振はず只信州の一部に限られたるが如きの感あるは土地氣候其の他の事情之れが不振の原因をなせりと雖も、主として製絲方法の困難なる之れが最大なる原因をなせるが如し。

天蠶及柞蠶に就き予が信州地方に於て調査したる一節と、聊か得たる經驗に就き少しく之れを陳述して斯業發展の資料に供せんとす。

（未完）

煮繭湯量の研究

通常會員　三谷　徹

湯量の多少が製絲經濟に至大の關係を有するにも拘らず、常に當業者に等閑に附せらるゝものあるを憂ひ、聊か之が警省と促さんと欲し、左に其研究成績を示さんとす、若し夫れ糸に看過するとなくんば實に吾人の幸とするのみならんや。

從來繭を煮るに當り煮繭滿面に湯を充たすを以て其法を得たるものとなせり、思ふに是れ湯水多ければ比較的其消少なく且つ湯温の保有宜しきがためなるべし、然るに傍友松下憲三朗氏は去る明治二十五年其得失を知らんがために、煮釜滿面に湯を充たして繭を煮たるものと其否らざるものとに就て試驗を行ひ其の否らざるものゝ可なるを確め、蠶事報告第二十二號を以て之れを世に公にせられたり、其後予も亦感ずるところあり其理由を、詳細に確かめんと欲し、更らに其方法を異にし之れが試驗を行ひたり、今其成蹟を左に記述すべし。

一、試驗の方法を左の三區に分つ、但し各壹尺壹寸の煮釜に繭一升を一回に煮熟せしめたるものとす。

- 滿湯區　煮釜に湯を充分盈したるもの
- 一寸減區　煮釜の緣より湯量を一寸減じたるもの
- 二寸減區　煮釜の緣より湯量を二寸減じたるもの

右三區を滿湯區の適熟に至りたる時間内湯温を等しからしめて煮熟したるものを第一試驗となし、滿湯區二寸減區を二寸區の適熟に至りたる時間内湯温を等しからしめて煮熟したるものを第二試驗となし、滿湯區と二寸區とは各其の温度を異にし同時間内に煮熟したるものを第三試驗となして其結果如何を調査せり。

一、試驗に供せる機械及原料は左の如し。

繰絲機械は鐵製ケンチル四口繰とす。

煮釜は真鍮製にして直徑一尺一寸深さ四寸七分底に給汽管のあるものを用ひたり。

原料は小石丸種にして一升の重量三十八匁九分、粒數二百八十五顆なり。

先づ各區に就き煮繭中の狀態を知らんがため煮釜各部に於ける温度を調査せしに左の如し。

種別	部分	位置	室内氣温	湯温	左側	右側	向側	手前側	中央	平均
滿湯區	上部	表	二六・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
		裏		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
	中部	表		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
		裏		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
	下部	表		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
		裏		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
一寸減區	上部	表		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
		裏		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
	中部	表		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
		裏		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
	下部	表		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
		裏		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
二寸減	上部	表		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
		裏		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
	中部	表		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
		裏		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
	下部	表		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
		裏		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

備考

一　部分欄の下部とは釜圍より一分内外の部分を云ひ、上部とは釜の緣に平行せる部分を云ふ、而して中部とは上部と下部との中央を云ふなり。

一　位置欄の右側左側向側手前側及中央とは釜内の位置にして繰絲器械全部を前に見たる方角より之れを定む。

右表によれば各區共其湯温の均しきにも拘はらず其湯量を減少するに從ひ湯上の温度高きのみならず其位置の如何により温度に著しき差異なし、是れ其湯量を減ぜるものは湯面より釜緣に至るの距離大なるが故に冷風の襲ひ來ることなきも、湯を充分盈したるものは絶へず冷風のために湯上の温度を奪ひ去らるゝこと多きが故に其温度低きは勿論又冷風の來る方向によりて蒸氣の剤積量自然異なれるを以て、釜内の位置如何により温度に著しき差異を生ぜるなるべし。

第一試驗

本試驗は、一定の時間即ち滿湯區の繭が適當の熟度に至るまでの時間と等しき時間内一寸減區及二寸減區をも煮熟したるに、二寸減區は頗る過熟に失したるものゝ如し、試みに各區の煮繭重量を調査せしに滿湯區は一百九十五匁、一寸減區は一百八十九匁、二寸減區は一百七十三匁即ち滿湯區に比し四割の増加を來せり、是れによりて之れを見れば高温の蒸氣を以て厳密なる程其否らざるものに比し煮熟速かにして且つ吸水量の多きを知るに足るべし。

左に繰絲工程上及生絲檢査上に於ける成蹟を表示すべし。

繰絲工程經過表

煮繭湯量試驗

種別	項目	煮繭	繰絲	繰絲時間	總時間	切斷	生絲	屑物	繭減耗	繰絲	繰絲時間	總時間	切斷	生絲	屑物	繭減耗
		個數	時間	個數	時間	數				個數	時間	時間	數			
滿湯區		一	一〇〇	一〇〇	一〇〇	六	一〇〇	〇・〇	一〇〇・〇	一	一〇〇	一〇〇	六	一〇〇	〇・〇	一〇〇・〇
一寸減區		一	一〇〇	一〇〇	一〇〇	六	一〇〇	〇・〇	一〇〇・〇	一	一〇〇	一〇〇	六	一〇〇	〇・〇	一〇〇・〇
二寸減區		一	一〇〇	一〇〇	一〇〇	六	一〇〇	〇・〇	一〇〇・〇	一	一〇〇	一〇〇	六	一〇〇	〇・〇	一〇〇・〇

右表によれば索緒時間は二寸減區最も短く一寸減區之に亞ぎ滿湯區最も長し、繰絲時間は一寸減區最も短く滿湯區之れに亞ぎ二寸減區最も長しとす、切斷回數は一寸減區最も少くして二寸減區最も多かりし。

種別	項目	煮繭重量	繰絲重量	繰絲時間	總時間	切斷回數	生絲	屑物	繭減耗	繰絲	繰絲時間	總時間	切斷回數	生絲	屑物	繭減耗
		匁	匁	分	分		匁	匁	匁	匁	分	分		匁	匁	匁
滿湯區		一九五・〇	一七六・〇	一〇〇	一〇〇	六	一七・〇	一・〇	一〇・〇	一七・〇	一〇〇	一〇〇	六	一七・〇	一・〇	一〇・〇
一寸減區		一八九・〇	一七六・〇	一〇〇	一〇〇	六	一七・〇	一・〇	一〇・〇	一七・〇	一〇〇	一〇〇	六	一七・〇	一・〇	一〇・〇
二寸減區		一七三・〇	一七六・〇	一〇〇	一〇〇	六	一七・〇	一・〇	一〇・〇	一七・〇	一〇〇	一〇〇	六	一七・〇	一・〇	一〇・〇

右表によれば絲量の最も多きは二寸減區にして一寸減區之れに亞ぎ滿湯區最も少し、屑物量は全く之れと反對の結果を呈せり。

絲量及屑物調査表

種別	項目	煮繭重量	生絲重量	繰絲量	繰絲時間	繰絲回數	繰絲重量	屑物回數	屑物重量	合計重量	繭減耗重量	繰絲時間	繰絲回數	繰絲重量	屑物回數	屑物重量	合計重量	繭減耗重量
		匁	匁	匁	分		匁		匁	匁	匁	分		匁		匁	匁	匁
滿湯區		一九五・〇	一七・〇	一七・〇	一〇〇	一	〇・〇八五	四・三	〇・〇八五	一七・一七〇	一〇・〇	一〇〇	一	〇・〇八五	四・三	〇・〇八五	一七・一七〇	一〇・〇
一寸減區		一八九・〇	一七・〇	一七・〇	一〇〇	一	〇・〇八五	四・三	〇・〇八五	一七・一七〇	一〇・〇	一〇〇	一	〇・〇八五	四・三	〇・〇八五	一七・一七〇	一〇・〇
二寸減區		一七三・〇	一七・〇	一七・〇	一〇〇	一	〇・〇八五	四・三	〇・〇八五	一七・一七〇	一〇・〇	一〇〇	一	〇・〇八五	四・三	〇・〇八五	一七・一七〇	一〇・〇

生絲檢査成績表

種別	項目	色澤等級	纖度 最太	纖度 最細	纖度 平均	纖度 大類	纖度 小類	纖度 合計	纖度 節用絲纖度	強力 最多	強力 最少	強力 平均	伸度 最多	伸度 最少	伸度 平均	割合
滿湯區	一	一	一四〇	一四〇	一四〇	〇	〇	〇	一四〇	七二	七一	七一	一六	一五	一五・八	一〇〇
二寸減區	一	一	一四〇	一四〇	一四〇	〇	〇	〇	一四〇	七二	七〇	七一	一六	一五	一五・八	一〇〇

右表によれば類節は一寸減區最も少く滿湯區之れに亞ぎ二寸減區最も多し、强力は二寸減區之れに亞ぎ滿湯區最も脆し、伸度は二寸減區最も長く滿湯區之れに亞ぎ一寸減區最も短しとす。

以上の成績により之れを概評すれば滿湯區は其煮繭の程度相當なりしを以て繰絲工程上著しき困難を感ぜざりしも、二寸減區は老煮に過ぎたりしを以て繰絲中屢〻糸額を生じ、來りて之れが整理に煩累を及ぼし且つ切斷を多からしめたり、生絲檢査の成績に於て類節の他に比して多かりしは蓋し之れがためなり、然れども滿湯區の繭は煮繭中絶へず冷風に接されたるを以て其湯中に入りたる部分と否らざる部分とに於て熟度に多少の差異を來して片煮となりたるものゝ如く、爲めに繰絲中煮繭多く且つ甑鍋に至り稍索緒に困難なりし結果絲量を減じ屑物を多からしめたり、而して彼の二寸區の過熟なりしによるなるべく、又生絲檢査に於て强伸力の他に比し强大なりしも亦此熟度の均齊が能く絲練の抱合を佳良ならしめたるの與つて力あるならんか。

之れを要するに滿湯區は煮繭の程度を適當ならしむるも尚時間は全く之れに反せり。

種別	項目	繭量 重量	生絲量 重量	繰絲量 重量	繰糸時間 時間	繰糸時間 重量	繰糸時間 割合	屑物量 重量	屑物量 割合	繭量 重量	減耗 重量	生絲量 重量	屑物量 割合	繰糸時間 時間	繰糸時間 割合	繰糸時間 割合	殘繭 重量	殘繭 割合	合計 重量	合計 割合
滿湯區		一四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一一	〇・〇〇	〇	〇	〇・〇〇	一四〇〇	〇〇〇	一四〇〇	〇・〇〇	一一	一〇〇	一一	〇	〇	〇	〇・〇〇
二寸減區		一四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一一	〇・〇〇	〇	〇	〇・〇〇	一四〇〇	〇〇〇	一四〇〇	〇・〇〇	一一	一〇〇	一一	〇	〇	〇	〇・〇〇

右表によれば絲量は二寸減區多く滿湯區は遙かに少く、屑物量は全く之れに反せり。

種別	項目	繰糸時間 時間	繰糸時間 割合	繰糸時間 割合	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間	繰糸時間
滿湯區		一一	一〇〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
二寸減區		一一	一〇〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一

右表によれば繰糸時間は二寸減區長くして滿湯區短く繰絲

時間は全く之れに反せり。

種別	項目	繭量 重量	生絲量 重量	繰絲量 重量	繰糸時間 時間	繰糸時間 重量	繰糸時間 割合	屑物量 重量	屑物量 割合	繭量 重量	減耗 重量	生絲量 重量	屑物量 割合	繰糸時間 時間	繰糸時間 割合	繰糸時間 割合	殘繭 重量	殘繭 割合	合計 重量	合計 割合
滿湯區		一四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一一	〇・〇〇	〇	〇	〇・〇〇	一四〇〇	〇〇〇	一四〇〇	〇・〇〇	一一	一〇〇	一一	〇	〇	〇	〇・〇〇
二寸減區		一四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一一	〇・〇〇	〇	〇	〇・〇〇	一四〇〇	〇〇〇	一四〇〇	〇・〇〇	一一	一〇〇	一一	〇	〇	〇	〇・〇〇

右表によれは二寸減區は類節少く且强伸二力に富むも滿湯區は之れに反す。

以上の成蹟により之れを概評すれば二寸減區の繭は滿面均齊に煮熟せられ且つ其熟度適切なりしが故に、解舒佳良にして繰絲工程極めて容易なりしのみならず絲量隠かに屑物量少く而して生絲の品位佳良なりしなり、之れに反し滿湯區の繭は少しく若煮の傾きありしに多少片煮を生じたるが爲め、解舒惡しくして落繭多く特に繰詰に於て操作に頗る困難を感ぜしめたり、此を以て絲量少く屑物多く而して生絲の品位亦甚だ劣等なるを免れざりしなり。

由是觀之其湯温を等しくし且つ給汽量を同じからしめたる場合にありて、滿湯區の熟度適切なるの時間内二寸減區を煮熟するときは老煮に過ぎ、二寸減區の熟度適切なるの時間滿湯區を煮熟するときは若煮に失せるものなることを知らるべ

種別	項目	繭量 重量	生絲量 重量	繰絲量 重量	繰糸時間 時間	繰糸時間 重量	繰糸時間 割合	屑物量 重量	屑物量 割合	繭量 重量	減耗 重量	生絲量 重量	屑物量 割合	繰糸時間 時間	繰糸時間 割合	繰糸時間 割合	殘繭 重量	殘繭 割合	合計 重量	合計 割合
滿湯區		一四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一一	〇・〇〇	〇	〇	〇・〇〇	一四〇〇	〇〇〇	一四〇〇	〇・〇〇	一一	一〇〇	一一	〇	〇	〇	〇・〇〇
二寸減區		一四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一一	〇・〇〇	〇	〇	〇・〇〇	一四〇〇	〇〇〇	一四〇〇	〇・〇〇	一一	一〇〇	一一	〇	〇	〇	〇・〇〇

右表によれは類節少く且强伸二力に富むも滿湯區は之れに反せり。

以上の成蹟により之れを概評すれば二寸減區の繭は滿面均齊に煮熟せられ且つ其熟度適切なりしが故に、解舒佳良にして繰絲工程極めて容易なりしのみならず絲量隠かに屑物量少く而して生絲の品位佳良なりしなり、之れに反し滿湯區の繭は少しく若煮の傾きありしに多少片煮を生じたるが爲め、解舒惡しくして落繭多く特に繰詰に於て操作に頗る困難を感ぜしめたり、此を以て絲量少く屑物多く而して生絲の品位亦甚だ劣等なるを免れざりしなり。

由是觀之其湯温を等しくし且つ給汽量を同じからしめたる場合にありて、滿湯區の熟度適切なるの時間内二寸減區を煮熟するときは老煮に過ぎ、二寸減區の熟度適切なるの時間滿湯區を煮熟するときは若煮に失せるものなることを知らるべ

種別	項目	製絲時間 時間	絲量 重量	屑物量 重量	類節 類節	強力 強力	伸度 伸度
滿湯區		一三五	一〇〇九	四・三二	一〇一	五三	一六五
二寸減區		一四三	一一二七	四・〇五	一〇〇	五八	一六二

右表によれば滿湯區は製絲時間短きの利あるも絲量及强伸二力共に劣等にあり、二寸減區は之れに反し製絲時間少しく長きを要するの不利あれとも絲量饒かに生絲の品位佳良なるの益あり。

第三　試驗

吾人は前表によりて既に二寸減區の滿湯區より優良なるを知ると雖尚ほ一層之れを確めんと欲し煮繭時間を一定して煮熟程度を均しからしめ且つ煮繭後の重量を同一ならしめば如何なる結果を生ずるかを試驗せしに、其成蹟は左の如し、但し煮繭溫度は二寸減區は二百五度にして滿湯區は二百八度なり、而して煮繭後の重量は等しく百九十匁とす。

絲量及層物調査表

種別	原繭重量	生絲重量	繰絲歩留	殘繭重量	屑繭重量	合計重量	繭重量	減耗量
滿湯區	一寸減區	一〇四匁	一〇四匁	三〇匁	〇匁	〇匁	一四〇匁	一匁
二寸減區	一一〇匁	一〇四匁	三〇匁	〇匁	〇匁	〇匁	一四〇匁	一匁

右表によれば絲量は二寸減區多くして滿湯區少し、層物量は全く之れに反す。

生絲檢査成蹟表

種別	色澤等級	纖度 最太	最細	平均	纖度 大糸	小糸	合計	強伸力 用絲纖度	強力 最多	最少	平均	伸度 最多	最少	平均	斷合
滿湯區	二	一六匁	一四匁	一五匁	〇匁	一二匁	一四〇	一四〇	一四〇	一二〇	一二〇	一四〇	一二〇	一二〇	一二〇
二寸減區	一	一六匁	一四匁	一五匁	〇匁	一二匁	一四〇	一四〇	一四〇	一二〇	一二〇	一四〇	一二〇	一二〇	一二〇

右表によれば繰絲工程に於ても亦絲量に於ても生絲品位に於ても、滿湯區より二寸減區は全優良なるを見るに足る。

以上三試驗を概括して更らに論評を試むれば滿湯區は湯面を絶えず冷風に襲はるゝを以て煮繭に長時間を要し且つ片煮となる傾向あり、爲めに繰絲工程を困難ならしめ絲量を減じ生絲の品位を貶するの缺あり、之れに反し二寸減區は常に高溫なる蒸氣を以て繭の全面を掩はるゝが故に、煮熟時間短く且つ其熟度均齊にして繰絲工程極めて容易なるのみならず絲量饒に生絲の品位佳良なり、加之煮繭時間の短縮せらるゝだけ給氣量を節約するの利あるべし、故に煮繭の湯量は釜底より冷氣を吹出しつゝ繭面を冷氣に觸れしむるとき尤も肝要なりとなすべし、只釜の深さ淺きものに對し、強に其量を減ずべしいたずらに却て不可なり、何となれば給汽の際繭を著しく動搖せしめて片煮を生じ且つ沈繭を多からしむるの際あればなり、若し此如き缺を使用するのに、ありては高さ内外を有する釜に適合せる圓き板蓋を釜の縁に嵌めて煮繭を行へば簡便にして其湯量を減ずるものと同一の效果を得べし。

終りに臨んで吾人は當業者に一言す、本法の改良なるや本法の改良なるや責本を要せざるのみならず機械の改良を要するものにもあらず、而して其器具の如きは、常に之れを試みて以て其當否を檢し改良に客ならざることを望む若し夫れ本法の改良に對し疑義を生ずるあれば詳細之れを記して以て吾人に示さるべし、吾人は喜んで之れが回答を惜だざるべきかな。

國のため蠶の爲めとて桑畑を
たがやせり人の樂しげに見ゆ

上州　三木和吉

四人三人寄さたすきゐ女らの
桑つむ手頃の顏白きかな

頭ひ行く馬子の道分かくれけり
草枕きゝゆる蛩畑の中谷

雜録

複式綾振器の改良

山梨縣　渡邊　潔

山梨縣南都留郡瑞穗村の人にして現今青森縣北郡七戸町に寓居る渡邊潔氏は、從來世に行はる、生絲掛返器の絡交條めて不完全にして爲に再繰功程上に困難を與ふること少からざるを遺憾とし、多年苦心研鑽の末、一の複式綾振器を發明し、之が特許登錄を出願し去三十五年十月遂に其特許專賣權を得たり、然るに氏は或る事情の爲め該機械を製造販賣して廣く世に普及するを得ざるに陷りたり、左りとて徒らに特許權を保持して利器を埋沒するは發明の本旨に戾り特許法の精神に反するの缺ひありとなし、無條件を以て該特許權を本會に寄附せんことを申出られたり、然るに本會は直接實業を執るものにあらざるを以て再三交渉の末、氏が得たる特許證を返納し更に本會報誌上を以て普く其構造を公示し、何人と雖も任意之に依て製作實行するを得せしむべきことを快許せられたるを以て、本會は氏が斯業に對して忠實なる之謀とし本會を信ずるの厚きを多とし

此に其顚末を記述し、左に氏が該機械發明の理由竝に改良の必要なる所以及機械構造の明細を揭記するとなせり、世の當業者亦氏の好意を領し之を實地に試みて以て斯業改良上更に一歩を進むるあらんことを希望す。

絡交改良の必要

生絲を綯に造るの目的は、之を括造するに其容積を小ならしめ、搬送を便にするのみならず、之を再繰するに當りて絲繰の紊亂を防ぎ切斷なからしめんことにあり、故に此等の目的を達せんには豫め計りて纖度と甕の回轉數とを一定し絡交器を用ひて絡交を施し一綯の重量を八九匁と爲す、是れ即ち在來、般に行ふ所の方法なり。而して此工程中最も容易なるが如くして其效果を全ふすることの難きは絡交にありとす、何となれば絡交の角度廣きものは括の外觀と光澤を失し且絡交保存の爲め甕角の固着を要し、狹きものは輕もすれば紊亂し易くして再繰に困難を來たすを免れざるなり。

現今各地の製絲場に使用する揚返裝置に就き其大枠に捲着し、ある生絲を仔細に觀察するときは、其絡交の角度は綯幅の中央に於て廣く兩端に狹くして其差〻乃至〻の比を見るべし、歯容積に於ても兩端は絲の捲着比較的厚く中央は薄くして恰も凹字形を呈せり、即ち此絡交器に於ては角度の廣狹と容積の厚薄とは併行するものにして、狹きものは厚く廣きものゝ薄きは免れざる所なりとす、斯の如く凹字形を爲せる突起物の如き兩端は、綯を壁より取り外づし捻造又は島田造と爲すに當り自ら落解するを免れずして、再繰に際しては絲繰紊亂の基因となる、而して尚在來の裝置に見るに其大壁に接着せる絲纏は其容積をして半圓形又は扁平形たらしめんが爲め、特に其絡交の角度を不規則にし廣く狹く常に異動せしめ以て其欲する所の容積を得るに努ひるも、其絡交の角度を異にせるを以て光澤に不同を呈し集合力不平均の結果は染色の場合に於ても色素吸收の度を異にすべし、以上は現今一般に行はる〻綾振裝置より來たす所の通弊なり、斯の如き弊害の顯著なるは拘らず當業者は敢て之を顧みざるが如き觀あり、之れ從來進歩せる機業地に於ては生絲保存上紊亂を防ぐの方法として多くの場合に於て、ロケ」を用ひたるに依り綯と爲し、邦生絲の大部分は海外諸國の需要に供するものなれば、生絲の絡交の良否は絲繰の紊亂を防ぎ且その美觀を保ち而して再繰工程をして容易ならしむるは生絲改良上の大要件なり、是れ今日多年研究考査の結果一の複式綾振器を按出したる所以なり。

絡交改良の要點

絡交は必ず左の如くならざるべからず、之を完全に遂行し得て始て改良の目的を達したるものと云ふべし。

一綯の容積は半月形又は扁平形たる可き事。

一絡交の角度は均等たる可き事。

一綯の二要件を具備するものは其形整正絡交の角度均等にして、接着せる生絲は緊緩の差を生ぜず、集合力に平均を保つを以て落解紊亂するを免れず、而して尚在來の裝置に見るに其大壁に接着せる絲纏は其容積をして半圓形又は扁平形たらしめんが爲め、特に其絡交の角度を不規則にし廣く狹く常に異動せしめ以て其欲する所の容積を得るに努ひるも、其絡交の角度を異にするを以て光澤に不同を呈し集合力不平均の結果は染色の場合に於ても色素吸收の度を異にすべし、以上は現今一般に行はる〻綾振裝置より來たす所の通弊なり、斯の如き弊害の顯著なるは拘らず當業者は敢て之を顧みざるが如き觀あり、之れ從來進歩せる機業地に於ては生絲保存上紊亂を防ぐの方法として多くの場合に於て、ロケ」を用ひたるに依り綯と爲し、邦生絲の大部分は海外諸國の需要に供するものなれば、生絲の絡交の良否は絲繰の紊亂を防ぎ且その美觀を保ち而して再繰工程をして容易ならしむるは生絲改良上の大要件なり、是れ今日多年研究考査の結果一の複式綾振器を按出したる所以なり。

し、且其層を縱横層と爲して厚さも又均等なるを以て堅かなる結着壓に依りて能く綯層を支へ得るが如し。

余が構造せる綾振裝置は上記の二要件を具備するを以て目的としたるものにして、並に在來に於ける缺點を補ひ得たりと信ず、其構造は審て特許局に提出したる明細書を揭げて以て其說明に換へんとす。

複式綾振器明細書

此發明は數多の歯輪と「カム」及伸縮する心軸とに依り第一綾振裝置と之を移動すべき第二綾振裝置と以上二部を移動する第三綾振裝置と第三綾振裝置の位置を變ずる裝置を湊合して成る綾振器に係り、其目的とする所は生絲を管又は甕に捲收するに一定間隔に絡交を成し其擺搖基點は終始移動して捲重を防ぎ更に之を漸次一方に移動せしめて生絲を弓形なる片捲と成すにあり。

別紙圖面に於て本器の構造を示す、其第一圖は本器全體の平面圖、第二圖は同正面圖、第三圖は伸縮自在なる心軸の平面圖、第四圖は第一綾振裝置の斷面、第五圖は第二綾振裝置の斷面圖なり。

右諸圖に於て同じ符合は同じ部分を示すものとす。

本發明は全部金屬を以て構造したるものにして心軸(イ)は第三綾振盤(西)の一端ロ)に嵌り此軸(イ)の前方に螺旋輪(ハ)を定着し其下部にある歯輪(ニ)と嚙合し歯輪(ニ)と螺旋輪ホ)を貫くに軸(ヘ)を以て螺旋輪(ホ)と歯輪(ト)と嚙合して歯輪(ト)と螺旋輪(リ)を貫くに竪軸(ヌ)を以てし、螺旋輪(リ)と歯輪(チ)と嚙合し歯輪(チ)を貫くに横軸(ル)を以てし、竪軸(オ)の下部に定着せる歯輪(ワ)と横軸(ル)の歯輪(チ)と嚙合し竪軸(オ)の上端に連結、而して場目車(ヨ)の一端と第二綾振盤(乙)の一端(レ)に連ゐるに下面に突子を有する連杆(ソ)を以てし、場目車(ヨ)の周縁をして該突子を摺動せしめ、以て第二綾振盤(乙)を推進せしむる働作を生せしむ、尙此第二綾振盤(乙)の兩側部には突子(ツ)と透孔に(ネ)を有し其突子(ツ)は第三綾振盤(西)に於ける兩側(ナ)に支へしめ透孔(ネ)は第二綾振盤(乙)に附せる突子を含せしめ且第二綾振盤(乙)の兩側に設けたる透孔には第一綾振盤(甲)に固着せる突子を嵌入し該透孔の内側一端にて右突子を推進せしめ以て第一綾振盤(甲)を移動せしむるものとす、又心軸(イ)の一端は接續筒(ム)に連結す、此接續筒(ム)の如きは種々に之を構造し得べけれども別紙圖面に於て其最も簡單なる構造を示す、即ち第三圖に示す如く軸の一端に圓筒(ム)を定着し其側に細き溝(ウ)を穿ち此溝(ウ)に嵌入すべき舌(キ)を他の圓軸に具へ之が適合して一軸を爲し伸縮自在ならしむ、又第二綾振盤(乙)の下部に當る心軸(イ)には螺旋輪(ノ)を定着し歯輪(ヲ)と嚙合して該歯輪(ヲ)の上端に歯輪(ヤ)と奕形(ヤ)とを重て定着し他の奕形(ケ)の軸(フ)に定着せる歯輪(コ)と嚙合しめ其上に溝を有する平板(エ)を支架(テ)(チ)に定着し該平板(エ)を有する圓板を平板(エ)と奕形(ゲ)(マ)との中間に挿設し該突子(キ)の上部は軸杆(ア)の一端に連繫せしむ、細杆(ア)は透溝(サ)を有し該溝内に第二綾振盤(乙)

の一側に固着せる支杆に移動すべく嵌合せる角鍔(ユ)に螺着すべき螺子を(メ)挿入す而して細杆(ア)の他端には下方に屈曲して該細杆(ア)と平行すべき位置に植杆(ミ)を支杆の裏面に設けたる支子に支へしめ其先端を連杆(モ)に附設す而して連杆(モ)の一端を第一綾振盤(甲)に固着し以て細杆(ア)の擺搖に從ひ第一綾振盤(甲)を移動せしむ、又心軸(イ)の先端は第一綾振盤(甲)の歪齒輪(ろ)の空軸に適合し竪軸(は)に定着せる歪齒輪(に)と嚙合し竪軸(は)の上部は第一綾振盤(甲)の上面中部に穿てる楕圓溝の中央に出し之に突子及透溝を有する小杆に於ける透溝内に嵌入せしめ尙其上に透溝を有する小杆を嵌合し該小杆に於ける透溝内には他の小杆に附せる突子を挿入し又該突子は綾振杆(よ)の一方に設けたる透溝(ぬ)内に嵌合せしめ而して綾振盤(よ)には突子(た)を設け以て第一綾振盤(甲)の面上に於ける一方に設けたる平板(ほ)の透溝(れ)内に嵌入せしめ又綾振杆(よ)には更に透孔(わ)を設け該透溝内を通し第一綾振盤(甲)の一側に固着せる支杆(る)に嵌めたる角鍔を螺着すべく螺子を設け而して綾振杆(よ)の他端には孔を穿ち以て之に絲を通すべくなすものとす。

本器運轉の順序は則ち心軸(イ)は全器の中央を通貫して第一綾振盤(甲)の竪軸(は)の回轉となり、又一方は其前部に在る第三綾振盤(丙)の下部に於ける螺旋輪(ハ)に因り齒輪は(ニ)(ト)(チ)を經て竪軸(オ)(ヌ)の回轉となる、此竪軸に裝付する鳩目車(ヨ)は獨立に其位置を調節し生絲細太に因り適宜の寄積を得んが爲め任意に之を回轉し又他の竪軸に移すことを得、此鳩目車(ヨ)の一回轉する毎に連杆(ッ)に因り第一綾振盤(甲)第二綾振盤(乙)を重裝したるものゝ全部を前進し綾振を重複ならしむ、此前進の速度は鳩目車(ヨ)の作用に因り始め速にして漸次遲く又漸次元速に復して終り茲に絲一管或は一枠を爲す絲の中高に撫着するを補け他一方は心軸にある螺旋輪(ノ)に因り齒輪(ヲ)を經て驛比したる莫形(ケ)(マ)の運轉となり細杆(ア)の突子(キ)に因り第一綾振盤(甲)の全部を擺搖せしむ、此擺搖の速度は莫形(ケ)(マ)の作用に依り中途に遲く兩端稍速に絲の中高を補くると鳩目車(ヨ)と同一なり、而して第一綾振盤(甲)の竪軸(は)の運轉に依り綾杆(よ)を綾振らしむ、之れが擺搖の速度は楕圓形溝に依り終始同一を保ち生絲給交の間隔を均一ならしむ、此作用は復式莫形(ケ)(マ)の構造に依て爲し得れとも楕圓形溝は復式莫形より其構造に於て稍簡短なるを以て茲に裝付したり、右第一綾振盤(甲)第二綾振盤(乙)を重裝するに或は(甲)を表面に(乙)を裏面に又は之と反對の裝置を爲すも可なり、此第一、第二、第三の綾振盤(甲)(乙)(丙)の運動相合し絲節をして一定の間隔に綾振り又之を重複しつゝ枠或は管の一端より他の一端に向て漸次に前進し自然絲節を中高に撫着せしむるものとす。

此複式綾振器は從來世上に使用せる絲綾器の類にあらず、需用者の適宜に任せ經綾器管捲器等に裝付すると第一綾振盤(甲)の如き裝置を施すに依り、其生絲綾列の距離終始均一を保たしむるか故に生絲一經の内に長短を生ずることなく、且つ第二綾振盤(乙)に驛比したる莫形(ケ)(マ)の凸所より回所に到る一面の弓形角度に因て細杆(ア)の移動に從ひ之を平行

第一圖

第四圖

第五圖

第三圖

第二圖

すへく其一端に固着せる植杆(ミ)及進杆(ム)を經て第一綾振盤(甲)の擺搖基點を移動せしめ以て捲着せしむるの絲の兩端は疎に中部を密ならしめ、猶第三綾振盤(丙)に裝付したる鳩目車(ヨ)は奏形(マ)と同一の角度を有し之に因て器械の二部分を前進せしめ以て稍中高なる容積に片捲となすものなれども、此第二綾振盤(乙)及第三綾振盤(丙)の運動は間接なるを以て生絲雛列の正距離を妨げずして絡交の角度一定なり、故に一管の絲は捲着力の平均を保ち機織に方て落解等あることなく且つ弓形なる片捲なるか故其傾斜面の一端より漸次に解舒し摩擦等あることなき爲め結繋絲切の憂なく、又一認の絲は絡交の角度一定なるに依り染色に方て着色と光澤とに均一を保ち且つ捲着力の平均に依り混亂紛雜することなく精良なる生絲を得るにあり。

蠶絲業と鐵道運賃（承前）

第六　鐵道運賃低減の程度

○○○

之れを推算すること左の如し。

明治三十六年度に於て各重要製絲地に着したる石炭は

信越線	屋代着	二、六二九	直江津より乗る
	篠井着	二、二七一	同
	長野着	一、八七三	同
	吉田着	三、一八二	同
	豊野着	六、四〇三	同
	柳尻着	一、二一一〇	上
	甲府着	三、五九九	四條より来る
			横須賀より来る
日本鉄道線	熊谷着	四、六六四	磐城より来る
	深谷着	八、五五一	同
	本庄着	二、一七八	上
	高崎着	七、九四〇	同
			上

即ち官線に於て三萬二千八十七噸、日本線に於て二萬三千三百三十三噸にして合計五萬五千四百二十噸なり、此運賃を計算すれば。

	噸数	噸に対する運賃
屋代直江津間	五、五一	一、三七五
篠井直江津間	五、一	二、二七五
長野直江津間	四、六	一、一一五〇
吉田直江津間	四、三	一、〇七五
豊野直江津間	三、九	九五二〇
西條横須賀間	二、四	六〇〇
甲府横須賀間	九、八	二、四二五
熊谷横須賀間	九、六	二、九二〇
深谷横須賀間	八、九	二、七八〇
本庄横須賀間	八、三	一、六六〇
高崎横須賀間	一五、五	二、七九〇
合計		二二、一五三

合計總運賃八萬參千八百九拾壹圓なり、但此石炭は悉く製絲用にのみ消費せらるゝものにあらず他の用途にも消費せらるゝものあるも、之れと同時に此統計に漏れたるものあるべきを以て假に肯一割を見込むとすれば運賃全額は金拾萬圓となる、今噸哩壹錢貳厘に低減すれば官線に於て五割貳分、日鐵線に於て四割減に相當し、此平均を四割六歩として推算すれば低減に由りて減ずる運賃四萬六千圓なり。

低減の結果鐵道の收入に影響する所斯くの如しと雖も是れ亦暫時の後には補償せらるべし、何となれば各地に於ける石炭の需要は必らず大に物興し從來望みて得ること能はざりし地方にも盛に輸入するに至るべく、亦從來需要しつゝありし地方は尚一層之れを需要するに至るべければなり、試に之れを推算するに。

	噸哩壹錢貳厘として噸の運賃	現在の總運賃	低減の結果石炭の需要の倍加として運賃収入
屋代直江津間	六、八〇	三、六一五	四、四七一
長野直江津間	五、五二	二、一四四	二、〇六八
西條横須賀間	二、八	七、二六六	七、二六六
甲府横須賀間	一、一七六	八、七二一	八、四六五五
熊谷横須賀間	一、一五二	八、九五五	一〇、七四六
深谷横須賀間	一、〇八	一、四八二	一、八二六五
本庄横須賀間	九、九六	三、六一六	四、三三八
高崎横須賀間	二、八六〇	二、一、五三	二、九、五三七

則ち短距離内に於ては運賃額を一倍しなる場合に殆んど收入に大差なく長距離に至りては遙に收入を増加するを見る、

蓋し運賃低減の結果必然爰に至るべきなり。

以上概算しなる所を總括するときは左の如し。

鐵道運賃	現在	低減額	低減後
石炭運賃	二、二一七六〇	一四七、八四〇	七三、九二〇
	一〇〇、〇〇〇	四六、〇〇〇	五四、〇〇〇
	二、二一七、六〇	一、九一、八四〇	七三、九二〇

現在參拾貳萬千七百六拾圓の收入中拾九萬參千八百四拾圓の低減し以て輸出奬勵費に充てよとは云へど之れ吾人の要望なり。

第七、鐵道運賃低減の結果

鐵道運賃に於て拾四萬七千圓、石炭の運賃に於て四萬六千圓、合計拾九萬參千圓の低減は只に幾千の實効を奏し得べきのみ、此點に於ては固より概算中の概算なれども試に推算すること左の如し。

近年輸出の目的を以つて横濱港に入着したる生絲を數ふるに。

	入着
明治三十三年	一、一〇〇、三六四梱
明治三十四年	一、四三、〇〇七九梱
明治三十五年	一、四六、二七五梱
明治三十六年	一、四三、二六四梱
明治三十七年	一、五九、八〇三梱

此五ヶ年平均毎年十四萬梱に相當す、今前記の如く運賃を低減し奬勵を加ふるときは從來就業時日の短かりしを延長し苧數を増す等に由り一割以上の產額を増加し斷言に難しとせず、一割の増加は一萬四千梱にして一梱の絲價を五百圓とすれば此金額七百萬圓となる、若し一割五分の増加とすれば壹千五拾萬圓となるべし。

七百萬乃至壹千五拾萬圓の輸出品を增加するため拾九萬四千圓に足らざる壹千五拾萬圓の輸出を奬勵するべし。

鐵道運賃の低減と同時に實行を要するは速運是れなり、蓋し速運方法を設定すべし

鐵道運賃の低減は同時に運賃の低減を以て補償せらるべし。

第八、速運方法

蠶種、殺蛹蠶(半乾燥)十蠶(本乾燥)の三種あるも、製絲業者が各地に於て實收するは多くは生蠶なり、中には殺蛹蠶あれども其割合至つて少なく千蠶に至りては益少なし、蓋し乾燥の設備は漸次各地に起さしむべきものにして假に實行し難きを以て此の如き有樣に經過しつゝあるなり、故に速達は生蠶に對して甚だ必要なり。

抑生蠶は水分の蒸發盛なるを以て其運送中當の取扱を誤りたるときは腐敗し、若くは不適品位を不良ならしめ甚しきは製絲の目的に供し難きに至るべし、故に蠶種は冬期に於て輸送は出來るも夏期に於ては速達の効力を全からしむるには所屬線路の異なるため或は車輛を變更し或は機關車を附變へ如き時間車共盛目的の着驛まで直行速達せしめんことを望ひ、特に遠距離の地方より蠶を積出す場合には一層之れを必要とす、新橋大阪間急行列車は毎時間平均二十五哩强の速力なれば之れを標準とすれば無本より信州國谷まで四十時間未滿にて達すべし、特殊の貨物には特殊の輸送方法を執らんと鐵道當局者に對して切に希望する所なり。(完)

桑樹被害の件に就き質問

愛知縣
通常會員　田中榮治郎

一被害桑樹（現品添付）の病名を問ふ。

該病樹は當地方に於て普通紋葉病と唱ひ居れり、該病桑は枝葉部には一點何等の被害を認めずして單に根部の病害に依り、夏期枯せる見本の如く數日間に蔓延枯死するものなり。

一被害狀況

該病桑は愛知縣北設樂郡稲橋村に於て採收せるものなり、地質は山間新土にして渓流に沿ふたる長方形の傾斜地にして礫質壤土の排水良き桑園なり。

數年前より同地方各所に發生し殆ど全桑園に蔓延し荒廢一株をも止めざるに至るあり、病桑を抜き去り數回植替を爲すも普通病に侵さるゝを以て、止むを得ず杉檜等を植へたるに此種の苗樹には被害を認めず。

一該病害桑の伝播防法

從來被害桑を堀出し其跡へ何等の豫防法を行はず直に植替を爲せるが、若し生石灰撒布又は焼灰等を爲さば該病豫防上効を奏するなるや、其他確實なる適法の御明教を受けん事の病害を根絶するにあらざれば同地方に於ける蠶業の前途實に杞憂に堪へざるものあり。右御乗教を請ふ。

答

技藝委員
農學士　堀　正太郎

質問の病害は桑紫紋羽病と稱する恐るべき傳染病にして一度該病の發生したる桑園に於ては一見健全と認めたる桑株も尚甚しく根部に病菌の寄生を見るなり、本病の特徴は被害桑を堀りて其根部を檢すれば紫褐色なる絹糸様のものゝ纏絡するを見、又諸々に暗紫褐色なる圓き小球體の附着せるは本病菌の休眠體にして菌絲の集合してなれるものなり、之を菌核と云ふ、豫防法は發病圓に就き其被害の疑ひあるものを一纏に周圍に深き小溝を設けて被害桑の根の健全桑の根に接觸せざる様になすべし、本病は主として根部より附近に病害を傳染するものなれば金々被害區域を增大すべし、又被害桑は周圍の土を堀り去り根部を露出して地際一二寸上の方より以下全體に生石灰乳を注ぎ土を覆ひ蹈くべし、被害輕きものは一時恢復すべし、又被害甚しきものは堀り去り其細根と纖と

も出來得る限り拾ひ集めて焼却し二年他作物を作るを安全とす、然らざれば客土法を行ひて桑苗を移植すべし。

桑樹被害の有無に就き質問

島根縣
通常會員　荒木德藏

拙者近傍三町許の距離に於て鎮山を開きたる者あり、常に鋼を吹き分くるが爲め近傍悪臭を以て覆はる、之が爲め桑園又は養蠶に害を與ふることなきか、詳細御明教を仰ぐ。

答

技藝委員　土屋泰

鋼鎔より發する悪臭ある煙とは蓋し亜硫酸瓦斯のことなるべし、果して然らば多量に發散するときは草木の繁茂は特に被害して枯死することあるべし、從て桑葉にも害を及ぼすを免れざるなり、此場合に於ては直接又は間接に蠶見にも有害なるべしと雖も、樹木又は農作物等に異狀を認めざる位の程度なれば蠶見にも亦無害なるべし。

風穴蠶種の件に就き質問

東京府
通常會員　木崎長太郎

七月二十日出穴の風穴蠶種を同二十三日に肉眼を以て看れば平附一枚の内卵面白色にして黑き點あり、恰も二化生の種に酷しかるが如きもの十中の三四に達し、其穴七は春蠶種と同様の觀を爲せり、此種は飼育するも充分の結果を得難きやに愚考せらる、其原因及び得失等至急御明教を請ふ。

答

技藝委員　八田達也

風穴に貯藏せる越年蠶種にして出穴後俗に所謂目の立つ理由は未だ詳ならざれども實驗に徴ずれば其目の開はるゝもの二あり、一は出穴後直に此現象を呈し、一は五日乃至七八日を經て開はる、前者は概ね發生ざれども後者は孵化發育最て他に異るることなし、要するに蠶種の進化其度を高めたるものは殆んど絶無にして、尚二化性實を帶ふるものは此現象を顯はすものゝ如し、故に原蠶飼育に於て人爲的退化主義を執るものは此兆を顯すの實例に乏しからず。

石油燈足蹈器械に就き質問

秋田縣
通常會員　小西新助

（一）石油燈を用ふる足蹈器械は湯加減に便利なるや、又上の利害得失を問ふ。

（二）繰糸用石油燈は油煙を發し製糸に影響を與ふるなきや。

（三）石油燈足蹈器械の販賣所及代價を問ふ。

右御教示を請ふ。

答

技藝委員　石居一郎

（一）石油燈足蹈器械は石油を以て繰糸湯を沸す裝置なるが故湯の温度を稍々均一を得、然れども到底高温を保つこと能はざるを以て煮繭は他の鍋を要せざるべからず、石油の消費高は十時間に（四口繰器械）凡そ四合五勺を要す、但

し錆漬の點に至りては未だ充分の比較を爲さざるが故に答し難し。

(二)石油燈は多少油烟の發生は免れざるも敢て製絲上に及ぼす程の被害を見ず。

(三)製造販賣所は東京市芝區田町四丁目一番地間中商會にして代價は左の如し。

鐵製四口繰一臺　金拾六圓

同　六口繰一臺　金拾九圓五拾錢

繭乾燥器に就き質問

宮崎縣通常會員　遠山克太郎

(一)繭の差替を要せざるなし、偶々御法川式の如きあるも價格の割合に乾繭量少く加ふに光澤を損ずること甚だし。

(二)近來繭貯藏庫は至る所完全の設備を見る、然るに乾燥所の完全せるものなきは一般に製絲家の甚だ遺憾とする所なり、仍て左の事項に就き廣く有識者に質問す、詳細の教示を請ふ。

(一)生繭を一度乾燥所に投ぜば一回の差替を爲さずして或る時間内に上下左右の別なく無水分となし得る裝置。

(二)一日若くは或る時間内に於て生繭百石若くは千石を無水分と爲すことを得べき構造及一切の消費積算。

答　技藝委員　永井米藏

(一)繭乾燥器には種々の裝置あり現今普通用ひらるゝ西ケ原式なるもの、林式なるもの、土管を床下に布設したるもの(鐵管を床下に布設したるもの、米國式なるもの、同上蒸汽熱原に近き而分及繭架の上方早く乾燥するを以て繭層の差替をなさゞれば平均乾燥し難し。

(二)乾燥器は西ケ原式を始とし種々の構造ありと雖も何れも比較的平均に乾燥せしむるものにして甚だ簡單なり、此目的を以て設計したる乾燥器は御法川式自動式乾燥器、天野式乾燥器、寺本式乾燥器等あり。

(三)乾燥器は其種類構造大小に依て建設費用異なるを以て一概に積算し難し。

製絲汽罐の件に就き質問

鳥取縣通常會員　富永爲太

米子製絲合名會社

(一)製絲用汽罐の火の引方甚だ不充分にして困難を感じ斯道專門家の指示に依り改修せんとす、嘗て貴誌上工學士芳賀先生の汽罐に關する講話を拜讀せり、願くは同學士の御指教を仰ぎたし。

(本會は右の質問に對し芳賀工學士の應答を請ひたるに、同學士は該件に關し參考の爲尚各種の調査材料を必要とし反問する所ありたり、依て其問答の要旨を左に掲ぐ)

(一)汽罐の所在地(市町村地より所在地までの距離)

(二)街よりの距離は以前百間以上ありしも現今は人家連々接近し四五拾間の距離となる。

現在汽罐築造の模様は左の如し。

一「ランカシヤ」式　徑六尺長二十呎、二本、ジューロー」

一煙筒高さ　六十尺

一汽罐より煙筒迄距離　三十五尺

一煙道徑　一尺八寸乃至二尺五寸　左記略圖の通

一石炭消費高並其名稱產地及就業時間。

朝五時より始業、汽罐焚火時間は三時半より午前十時迄六時間餘、此燃料九州若松炭にて二千斤乃至三千五百斤(和斤)一日十三時間乃至十四時間にて平均四千五百斤乃至五千斤位(炭質は普通品)消費す。

一製絲釜數

現在二百五十人取(但過て二百八十八人取となす豫定)

一汽罐格爐の面積

火扉は徑二呎二吋ロストル(長二呎)にて五呎、

一煙道

煙道は切り口四角にして汽罐の下は

汽罐より先煙筒迄の間は

一汽罐の汽壓

通常使用中四十封度乃至五十封度朝始業の時六十封度

一煙筒

高さ地上より六十呎、孔の最大部分は最下部にて徑三呎、最小部は圓上にて徑一呎八吋、切り口は六角。

一汽罐煙道所在地の地形

濕地と云ふ程にあらざるも降雨には地下水多くして連日降

一雨の時は煙道に溜ることあり。

一汽罐の煙道及煙道等築造物質、煙道等總て煉瓦を以て築造す。

一本質問提出の原因は如何、汽罐が裂絲用として不足を來し居ること、工場用として汽罐の能力充分なるを防ぐ爲めなるか。

一不充分にして四隣に煤煙を飛散するを防ぐ爲めなるか。

今回質問を提出せし原因は汽罐が裂絲用として不充分なる爲めにはあらず、則ち汽壓昇らざるにあらず、現在にては汽罐の能力稍不充分なるも燃料の燃燒不充分にして燃料の不經濟なること其重もなるも燃料の燃燒不充分にして燃料の煙を四隣に飛散すること多し、是れ燃燒の不充分なる爲めなるべくく之を防ぐも亦法ならんと思推す。

一火の引き方不充分なりといふ其樣樣なり、火の燃燒惡く、燃ゆべき部分充分燃え切れずして出ることあり、全く火の吸ひ込み惡きに因るものならんと思はる。

汽罐は裂絲用釜の外汽機又は乾燥機に用ひ居るや、其汽機の馬力、寸法、裂絲用釜に使用するもの其大部分なり、尤も汽機には使用し居るも汽機は汽筒徑八吋餘り六汽切餘と稱せり、外に乾燥にも用ゆるも汽筒徑一吋餘と稱せり、只裂絲中用ゆるは僅に小枠背後に小管を通し居るに過ず。

前陳の如くにして愚考する所には主として煙道が割合に狹きが爲めにはあらざるかと思推す。殊に雨天に水の溜まることあり、之等も又大に關係するにはあらざるか、依て煙道を大にし水の患なき樣地面より上位に築替るは如何や、尚左の各項又其不備の點にあらざるか。

一側面の煙通孔は最狹部七寸餘に過きざれば是れも格爐の割合より狹きに失するには非るか。

一汽罐の後ろ突當の筒所如何、「コンバンション」割合に狹きにはあらざるか。

一汽罐より煙筒迄の距離三十五尺あるは割合長きに過ぐるに現今の築造方法は火が汽罐を通り兩側に分かれて前の下に來り汽罐の下を通りて煙道に出る樣になり居れり、是は「コルニッシュ」式の築造方なりと傳承せり、「ランカシャ」式は普通此反對に煙を出すものゝ如く思はるゝも燃料の善惡も之れに關係を及ぼすや如何。

右弊方の愚考にして疑義を抱きつゝある點なり、御參照の爲め掲げて高教を仰ぐ。

答　工學士　芳賀惣次郎

問者の提出せられたる材料に依り熟考するに、煙突吸引力の不充分なるは種々の原因錯綜して然るものならんと思考せらる、今左に貴社現在のもの、如き大さの汽罐に對する煙瓦稿、煙道、煙突の割合を示して參考に供すべし。

一煙突

貴社の煙突は切口即ち口徑一呎、八吋の六角なる由なれば一八平方呎即ち二平方呎はなきなり、然るに貴社の石炭消費料は一時間五百五十五英斤最大の時となる故、格爐面積

一平方呎に對し一時間に二十封度以上二十五封度を燃燒せしむる割合となるを以て、假に二十四封度を割合となるものとして高さ六十呎の煙突は最小部分に切口面積四、三平方呎、口徑二呎五吋程の圓形煙突を要とす、然るに格爐面積一平方呎に一時間二十四英斤を燃燒せしむるには煙突百呎以上、口徑も又これに適する必要を要する事となる。

然らば充分なる蒸氣の發生を見るを得可し。

貴所の石炭の燃はむし燒きるものなるを以て、假令一時間一平方呎二十四封度内外を消費するも、其熱度の功果甚だ少く、換言すれば石炭の不經濟なる事少からざるなり。

六十呎の煙突ならば一時間一平方呎（格爐面積）十三封度乃至十五封度を消費するを普通とするなり、即ち一時間に貴所の汽罐の消費高は前に述べたる如くにて三百四五十封度の發生と比例するものなるべし、但し石炭の燃焼は經濟的に水も蒸氣を發生不充分なる事あり、故に是れ煙突に充分なる吸引力を增加しむるか又は他の方法により石炭の消費高を增加して蒸汽の發生力を增加せしむるの方法を取らざるべからざるなり、

東京の如きは貴社と同形のものなれば八十呎以上の高さ、口徑二呎五吋以上の煙突を使用し居れり、又燃料の經濟を主とする時は稍や大なる煙突を建築するなり。

一煙道は圖の如き面積を要す、又煙道長さは三十五呎にても差支なし、但し屈折の數多きと屈折の角度急なると煙道の水溜あるは甚だ宜しからず、而して煙道の構造は切口面積を一樣ならしむべし、大小あるはからず。

一汽罐の煙瓦稿

此圖に示したる如きは六尺徑の「ランカシャ」汽罐の普通なる割合なり、多少の伸縮は差支なかるべし。

一煙火の通方は「ランカシャ」と「コルニッシュ」は問者の言はるゝ如く反對なり、併し孰れにしても差支なかるべしと思考す。

又煙突の內徑は下底より上部まで同一面徑、即ち同一面積なるを良しとす。

以上は六呎、二十呎と云ふ「ランカシャ」形汽罐に對する煙瓦稿及煙突、煙道の割合を述べたるものにして、消煙の目的又石炭を經濟的に燃燒せしむる方法としては尚種々なる設備を要するの如く知るべし。

而して現在貴社の汽罐及煙突に對する場合には如何なる方法にせば可なるや之れとの問題は余素より定論あり、然れども

之等は經費を投ずるの多くに依りて自らと設計を異にすべし、假令ば現在の如くんば石炭の消費上甚だ不經濟にして到底看過するに忍びざるに依り全部の改造を行ふも苦しからずと云ふが如き大改善を行ふの意旨ありとせば從て之に相當するの方法あり、要するに此問題を解決せんとするには經費の多寡に依て為すべき事に輕重あり前後あるを以て直ちに單純なる答を爲し難し、故に愈改修に着手せらるゝ場合に於て更に其意向を知悉し然る後遺ふる所あるべし。

（譯文）

千九百四年、千九百五年の役は日本歴史に未曾有の光輝を放つものなり日本は生絲輸出國として世界の一等國のみならず、又日本は其工業の發達益盛大にして恐るべき大戰爭中なるに拘らず商業は極て平穏興しつゝあるのみならず、今や日本は政治上世界の最高位を惹ぶるに至れり

目下の狀態に依て推察するに日本は和は強して強からず來たるべきが如し而して此大戰爭して一度目覩むときは日本は開國以來未だ世て敗北したることなき國と稱するか為べし感ずべき徴

余は日本人の忠君愛國の心に富めると勇敢なる品質とを熟知するが故に余は始めより日本の勝利を疑はずして今や日本は果して名譽ある大捷を得たり余は滿腔の誠心を以て吐露して之を祝するものなり

歐洲各國に於ても心あるものは黄金と黄色を同ふせり

男爵下井に贈絲會員各位願くは余の深厚なる敬意を享受せられよ

エ、デ、ハゲイエール

大日本蠶絲會々員男爵松平正直殿

横濱市場

絲況

製絲家の七月は内充實なるせる新論に依り幾千百の紅事を督して繰車の音耳を聾せしめ、外前軍ゞ横濱埠頭に進めて敵と雄を爭ふの時期に入れも、此時に於ける市場の光景果して如何、其上旬に在りては在荷の稀薄と共に氣配甚沈着、而して歩一歩不昧の傾向を現はし、價格は五圓又十圓安直を唱ひて菊主の艪を漂からしめたり、中旬に入りて依然振はざりしが次て新に注電に接したる向あり價格五圓高を報ぜり、其十九日に於て折返絲の初手合を見、價格は嫉達摩九百五十圓、一頭馬九百三十圓にして是を客年の九百圓と八百八十圓に比せば各五十圓の高位なりとす、下旬に入りて漸次氣配を回復し益好況を呈するの傾向を生じたり、其二十四日に於て上州南部坐繰の初手合を見たるが其價格及昨年のそれとの對照左の如し。

	横濱市場	甘樂紅	横濱市場	甘樂紅
	五人組	二人組	五人組	二人組
	二十七年七月廿四日		三十七年七月廿五日	
	一〇一〇	九八〇	九三〇	九一〇
比較高差	八〇	七〇		

甘樂紅金紅雫
横濱紅金紅雫
東京紅銀紅雫

九六〇　九四五　八八五　六〇　六五

而して月末に至り折返は九百七十五圓を以て販售せられ一般市場の光景漸次好調に向ふものゝ如し。

今の時に當り我大輸出品たる生絲の好況ならんとは何人とも嘗も切に祈る所にして價格の昇騰又頗は大に注意を希はざるべからざるなり。

今年の生絲の出品は前年に比して其狀況は大に異なりたるが如くなれども其價格は前年のそれとは從て其出品の減少に伴ふて價格の進退に就ては

ものは四百九十三俵なりとす。
但し一俵は十六貫目なり

明治三十八年七月自一日至三十一日生絲集散日別表

尚左に生絲集散日別表を示すべし。

日次	入荷	手合	賣了	引渡	輸出	地方積置	國名	社名	最高	最低	備考
一日	二〇〇	一二六	四〇〇			六五	甲州	矢島組	一〇五	九七五	絲況前日同樣何分出淸の爲め捗々しき手合なし
二日	四一三	新古	新古	後	後	後	信州	治金	後	五	日曜日
三日		五四	九二四			三	駿河	信富士共			氣配保合の狀況なりし
四日	一、〇一九	五四	五一六		一四二	九	遠州	林野	一〇九	九七〇	米國獨立祭の尚ありて氣配一寸落付模樣
五日	三三七	一六三七	四八	九		三九	美濃	砂土	一〇〇三	九〇〇	奥分か食慢しへ賣座にな氣味なるに
六日	二五一	三六二	三三四	一八		甲州	武州	矢島組	九〇五	九〇〇	より當月日曜なり來り買方に安の
七日	四七八	六一四	二一四七	一八	一四二	九	駿河	林組	九八九〇	九〇五	絲況は前日の通なれど品に於ては何分
八日	二二九	一八三	一三四	一八		三二五	信州	谷野	九八九〇	九〇五	或る出來ずしが館は氣もちず五圓に安の
九日	二四〇			四〇			美濃	武藤	九八九〇	九〇五	現在の氣配は前日の通なれど品に於ては何分
十日		一二八	二六四			九	信州	柳組	九八九〇	九〇五	前日の通なれど品に於ては何分
十一日	一、一四七	五一三	三三三			二二	信州	飯田	九八九〇	九〇五	賣買は小口の調子にて相場は益安と引續き
十二日	八一〇	三六五	二九三			一八	信州	矢島組	九八九〇	九〇五	廻り合からの足取になりし
十三日	三一一	二〇四	六五七			一八	信州	治金	九八九〇	九〇五	相場は前日同樣保合の有樣にて上記の
十四日	四四四	一八〇	五〇〇			七	信州	最高	九八九〇	九〇五	安値がち折合ふものは取組あれども
十五日	三八二		四九〇	一二	四〇	三五	甲州	田製絲	九九〇	九四五	氣配相場共則に異動なし
十六日	七一四			一八		七五	信州	大社二羽	九四五	九〇	日曜日
十七日		二五四	二六二	一八		三五	上州	三河屋			氣配保合の狀況なりし
十八日	七五五	四一五	二七〇	二三	三四五	備中	信州	仁田合資	一〇二	九〇	多少新規注文逢したる向あり品により
十九日	六三四	四八七	四三七	二三		上野	信州	靜岡	一〇二	九〇	五圓安の成行なりし
二十日	四八八	一一五	二七〇	一八		信州	信州	合社	一〇二	九〇	相場保合にて當用日へ弗々買出來ず
二十一日	四五五	四一五	五一七		五	同	信州	永社	一〇二	九〇	相場は前日の通なれど品に於ては何分
二十二日	四八四	八三	五五八		九	一七	信州	一恕組	一〇二	九〇	前日に比し調子合なれど品により何分
二十三日	六六六					九一七	信州	馬場	一〇二	九〇	好目直の力なりし
二十四日		入四〇	二〇二	一九	五六	二四	上州	永社	一〇二	九〇	日曜日
二十五日	一、〇六一		二〇一			一七	武州	會大	一〇二	九〇	上州市場出來し其他太筋
二十六日	六五八	一〇	八〇五	一八	一〇	一〇	甲州	樂社	一〇二	九〇	物に取組あり相場は前日に比し五圓方
二十七日	三七八	三〇二	六六四	五五	二〇	七八	甲州	甫水	一〇二	九〇	高なりし氣配は前日同樣小數に保合なりし
二十八日	一、〇九一	三七九	六五〇			三一一	武州	大社	一〇二	九〇	濃當品に何分か紆直に取組あり大體の
二十九日	四九五	二四二	一三二	二二	一六二	一八	信州	會大	一〇二	九〇	氣配は前日の通なりし
三十日	七〇七					一〇	上州	宇社	一〇二	九〇	依然手堅く保合居れり
三十一日		四九八	三〇八		二〇	一〇	甲州	樂社	一〇二	九〇	引續き相場の商議より氣配は頗る手堅
合計	一四、八四五	七〇二一五	八、七六二	四四六	四、三三九	六六六	信州	伊賀	一〇五	九七五	し氣配異動なく手堅く保合居れり
								社	一〇	九〇	日曜日

日次	入荷	手合	賣了	引渡	輸出	地方積置	國名	社名	最高	最低	備考
十四日								太細			
十五日								絲			
十六日								中間			
十七日								諸橋			
十八日								太			
十九日								細			
二十日								絲			
二十一日								中間			
二十二日								諸橋			
二十三日								太			
二十四日								細			
二十五日								絲			
二十六日								中間			
二十七日								諸橋			
二十八日								太			
二十九日								細			
三十日								絲			
三十一日								中間			
合計								諸橋			

西暦	評
古	新
一三四	四七一
	六八九七五三
	八六八九七三

尚左に本年一月以來の生絲集散の狀況を明かならしめん爲め月別表を示すべし

生絲集散前年對照表

月次	持越	入荷	賣了	發送	越	輸出	出	計
一月	一〇、四一〇〆	八、九五九〆	八、五一〇〆	四、七三〇〆	一、一七六〇〆	五、六六一〆	六、一四三、二一一〆	
二月	一、一七六、〇〇〇	三、八八三	一、〇八七〇〆	一、七五二	六、〇七〇	六、七六五	六、六〇四、九五四	
三月	六、〇七六、〇九	五、九四一	七、〇四五〆	一、六八二	四、三六六〆	三、七七二	四、〇五八、七六九	
四月	四、三六六、〇〇	七、二七一	七、七〇〇〆	一、二九〇〆	四、二四〇〆	五、五一二	五、〇九六、六四二	
五月	四、二四〇	五、〇五〇	七、三八四〆	二、四六〇	二、四六〇〆	三、三九二	三、三八一、九七七	
六月	二、四六六、〇〇〇	二、九七〇	二、二二三	七五、〇〇〇	二、四三一〆	三、一一三	二、九〇八、九六八	
七月	二四三一〆	一四、八四五〆	七、七六、〇〇〇	七、八四〇	七、八四七〆	四、四三九	四、四三五、七八八	
計		四八、九一九	五二、五〇〇	六、六六六	七、一八七	三二、五五四	三二、六〇三、〇〇〇	
三十七年 同上		四一、五九五〆	六一、〇一四	四、七六七	八、八六八〆	三二、五八〇	三二、七六三、六〇八	

紐育市場

紐育生絲市場の近況は同地駐在西田帝國總領事の最近電報なる左に掲ぐ。

生絲は各國原料輸入商も高騰か鳴へ居れど有は相場物の値段に比べ不釣合なれば職屋は製安の現物を除く外仕入見合の有樣なり。機械一番四弗一仙半より四弗五仙（七月十八日報）

生絲市況相變らず手堅し、機械一番四弗五仙より四弗七仙二分ノ一（八七月二十六日報）

生絲は直引少きも相場益々騰貴す。機械一番四弗一〇より四弗二〇（八月二日報）

機屋は相場の下落を待受け當座用の外生絲の仕入を見合せ居るも各産地の相場際原料の取入に踊躍し居る柔なり、而して現時の狀況は消費者は新絲より古絲を好むは必然なるに古絲は其價新絲より廉にして且組物の何物を問はず絲立に適用さるゝが故なり。

以上の如き諸種の情況なれば實際の手合は大に減少し不振を示せり、今週歇洒絲の出來直は左の如し。

「ビエモシ」	一等	十一—十二	四十八法
「ヒヴェーヌ」	一等	十四—十六	四十七法
同	一等	九—十一	四十六法
同 白	一等	十—十二	四十六法
伊太里	三等	十一—十三	同
同	一等	九—十一	四十四法
志里	二等	九—十一	四十一—四十二法
同	三等	十—十一	四十法

美濃市場は依然取引不振なり、殆は新絲の仕入直段高直に上りしより自然製絲家も高直を唱れども買人は之を拂ふことを好まざる於故なり、然古絲は相場物なれども機屋は此直を承諾せざる有樣なり、然古絲は細物相應に實行あり。

馬浦の乾繭市場は又々取引不振に落ち入れり、出來直は志里十法十なり。

惡繭惡生絲の里昂今週の市場は上海への新絲先物の往文は未だ現はれず、然れ共座繭一番四十法の囂に支那商は堅く待囂へ居れり。

當地市場に於ける日本絲今週の出來直を見たり。

器械	一等	九—十四	四十七法半
同	一等二	九—十一	四十六法廿五—四十六法半
同	一等二	十—十二	四十五法半
同	一等二	十一—十三	四十四法半
同	二等	十一—十三	四十四法半
同	一等二	十二—十五	四十四法半
掛田	逢摩	十三—十五	四十五法半—四十四法
同	一馬		四十四法
同	二馬		四十二法半—四十三法

里昂市場（七月一日報）

伊拂の製絲家若くは思惑等は相變へて生繭の買入に從事するより機屋は物か原料の取入に氣を奪はれたれば馬見ゆ、而して例年の如く新絲の先價格とて古絲の相場以上な超過せる中は新絲の先物製造注文は大に減少する有常とて、新く買入注文溜さ中は同絲の市場在荷は次第に盛みて開市初旬は益々賑みとなるとも同時に目々の取引は小荷來ながら續持し得るもなり、去れば最後の市況は一々需要の活不活に因りて左右さるゝ有樣なり。

今日の處にては生絲の騰貴は相物の市況上著しき影響を及ぼし爲めに機屋は此に伴ひ當地も益々騰貴の有樣、器械一番四弗一五仙より四弗十七仙半（八月九日報）

上海市場（七月廿八日報）

當市場今週の下半季は殆々小爲き傾きみ來し何時持囂は何れも實氣に傾きたり、爲めに蘇繭金五百五十兩の格にて可なりの取引出來し其他の相場は黃象五百八十兩黃象五百六十五兩、絲双象五百五十兩、銀双象五百五十五兩、栄盛船五百三十五兩を示し居りたり、濱流機械絲は一向に染みたる買人なかりし、黃絲五割合に買人ありて弗々ながらの取引ありたり、愛信潤米に於ける市場の在荷は左の如くなりし。

白絲四平俵黃絲八百俵野蠶絲二千七百俵

尚六月一日以降の輸出高を一昨年及昨今兩年と對比すれば左の如くなりし。

白絲	黃絲	合計	白絲	黃絲	合計
本年	四、八三一	六、二四八	一、四一七	一、四一七	三、四九八
昨年	二、六一二七	三、四九八	八七三	八七三	五、四七七
一昨年	四、七八九	六八八			

佛國養蠶業（承前）

通信委員
在佛國　峰村喜藏

九　飼育法

飼育法は概ね「ヴェ」氏二十二度より二十四度、即ち華氏の七十一度六分より七十五度二分を目的とし寒暑の手當をなし所謂折衷育を行ふ、各齡の日數は第一齡六日、第二齡四日、第三齡六日、第四齡七日、第五齡九日共に三十二日を以て終りを告ぐと雖も、亦三十五六日乃至四十日を要するものあり、其給桑の量は蠶卵二「グラム」に對し約三十基、今各齡に於ける給桑及除沙の回數及蠶座の積を擧くれば左の如し。

齡別	給桑一日の回數	除沙回數	蠶一「オンス」に對する蠶座の積坪	同上本邦尺換算坪
第一齡	四	一	五	二・七八
第二齡	四	一	五	五・四五
第三齡	四	一	一五	一六・三五
第四齡	三乃至五	一	四五	四九・〇五
第五齡	三乃至五	一	七〇	七六・三〇

剪桑、給桑、除沙、分箔等の方法は「モンペリー」農業學校蠶業部に於けるとて同小異にして、本邦に於ける如く用意周到ならざるも天然の氣候其宜しきを得て相應の結果を收め得らるゝなり、而して各育蠶家の飼育量は蠶卵二十「オンス」七、八「オンス」等不同にして平均約二「オンス」位なり、育蠶期中の人夫料は所に依り多少異なると雖も約男一日三法女二法にして食料は自辨なり。

十　上蔟

熟蠶の始まりし時 Bruyere guait Cyrle 等の濃木或は Brandbes ie chaine（樅枝等を蠶座の各所に約一尺二寸隔てに並列し、第一列は上部を内部に彎曲す、此彎曲は次段の蠶箱の下部を以て定規となす故容易に作爲することを得、第二列の分は一方は第一列の分と相對して彎曲し以て中央を交叉せしめ一方は更に他方に彎曲して第三列の一方の分と相對して交叉せしむ、各段に於ける蠶箔上皆斯の如く裝置す、熟蠶は適宜登りて營繭し未熟蠶には少量づゝ給桑す、而して悉皆蠶兒の繭に於ては蠶沙と共に之を除去するなり、尚ほ後蠶病蠶等あるに於ては蠶沙と共に之を除去するなり、爲めに各所に空間を生じ空氣の流通宜しく成蠶の時に於ける蠶架蠶箔の外別に增設することなく且つ特に人夫を要する等の煩なし。

十一　收繭

簇を與へしより八九日目にして繭掻きをなし、十日目頃に賣却するを普通とす。

蠶卵二「グラム」より一基六、七、乃至二基の繭を普通收納し繭一基の價約三法なり。

十二　製種

收繭後一々繭綿を去り針を以て麻絲を各繭の胴部の一隅に通し、繭を横に並列して約六尺見の長さとなし之を適宜に懸垂し以て發蛾せしむ、蛾は此繭上にかゝりて交尾す、午後二時頃に至り割愛して雌蛾を寒冷紗製の小囊中に入れ囊口を締め之を懸垂しある視繭の下部に懸げ以て此内に產卵せしむ、一般製種家の使用するものは稻々小形にして底形一寸二分深さ二寸五分なり、又幅一寸七分長さ四寸六分の天笠木綿を適宜に懸張し其上部約二寸二分の處に視蛾をたき下部の布端を折り返し「ピン」にて止め視蛾を包み他目錄檢の用に供す。

平附の製法は幅二尺六寸長さ五尺の天笠木綿を壁或は木枠等に懸張して其上に產卵せしむ、其蛾數約三千二百滿面殆んど間隙なく中には四、五粒重なりたる所あり、此卵量約一基即ち我が二百六十六匁なり。

佛國内大製種家たる「ヴァー」縣「コギョラン」なる「フェルラン」氏は年々十萬「オンス」の蠶卵を製造す、之れ本邦平取約十萬枚に相當す。

十三　蠶卵の洗淨

蠶卵洗淨の時期は其年八月下旬頃より翌年三月頃迄に行はると雖も、何れも販賣上の關係等より其年十月頃迄に洗落して得意先に配付す、或は蛾附のまゝ洗落を行はずして配付するものあり。

昨年八月三十一日「ガアー」縣「シュメース」「ヴョルネ」氏方に於て實行せし蠶卵洗落の方法を記さんに、直徑一尺八寸深さ一尺なる圓形亞鉛製の器に水を入れ、此中に平附蠶種を浸すこと三十分間此時水温華氏の六十度、後鉋刀にて布面より卵粒を水中に掻き落し終つて手にて少しく攪拌し暫時にして重きは沈み輕きは浮ぶ、此浮びたるものを水と共に他器に移す、更に水を注加して別に無數の小孔を有する鐵葉製の器に清き綿布を布き置き、此上に蠶卵を移し水を去り綿布を寫東し適宜に懸垂して乾燥せしむ、袋製蠶卵洗淨法も別に異なることなく而して淨卵は約三十分の一を有す。

十四　製種

佛國製種家は各家頗微鏡を備へ附け各自に視蛾の鏡檢を行ひ、以て微粒子を除去す、尋の歩合は時に或は個體に欠點ある或は氣候の比較的良好ならざる等より有毒一二歩なることありと雖も概して皆無なり、其檢査の方法等も至つて簡略にして多くは一蛾を一紙に掛り清し、或は四、六、八蛾等あり、附着したる蛾を掛り清し、用ひずして直に鏡檢に附す、一人は蛾を出し、一人は掛り清し、一人は洗ひ方をなし鏡檢者は毫筋子を拭ふを兼ぬる等作業の進行至つて迅速なり。

十五　蠶種の販賣

其年九月頃より翌年三月頃迄に得意に郵送するあり、或は蠶種家自身各得意を廻はりて販賣するもあり、昨年九月二日子は某所に於て或蠶種商に會せり、此人中形の「カバン」中に蠶卵、蛾附のもの）を入れ各得意に配付し居れり、此人年々約三百「オンス」を製造すと、而して二十六蛾分を一輕となし四輕即ち百〇四蛾にて價十法なりと云へり、代價は現金拂ひなるも時に或は貸し賣りをなすことあり、蠶卵の價は

Celluloseの袋取法（「オンス」八法より十二法、dackelluloseのinhmgsfolio sau folio 平附製）にて「一オンス」三法より六法を普通とする。（完）

滿洲近信

技師委員
農學士 辻 暢太郎

議に踏襲三等主計として從軍せる本會技師委員辻農學士は帰朝後陸軍健兵隊に在りて軍務に終事しつゝあるが、此程本會幹事なる本多農學士に送ひる近信中滿洲に於ける養蠶に關する事項あれば其一節を左に掲ぐ。

（前略）私事附屬の職除は奉天會戰の節は中央軍に屬し、初め（三月四日より）後三道溝子に於て角面堡に據り萬寶山海鼠山の要害に居を占めたる優勢の敵に當り、五日間は前進するも退却する殺滅を免れざるの境遇と相成り、日々重砲彈流散彈の爲めに二三十名の死傷者を出すに至り候を以て、大隊長は寡力進みて皆々名譽の戰死をなすに如かずと前進の命を下し候處（中略）八日の夜半敵の全部退却せしること斥候の通知に接し直に中央軍全體の總追撃に遷り、九日桑林子に露營、十日奉天の北方王花勾に露營、十一日より軍の殿備隊と相成り同地に永く滯在する事の命に接し候、現下は開原の西南約四千「メートル」の所に在る一小村落に宿營致居り候、當地日の出は暑氣隨分厳敷御承知の通滿洲に有名なる蝿の多きには誰も閉口せざる者無之候、併し夜間蚊の少しも無之は不幸中の幸にて御座候、當地の梅雨は八月に有之先月下旬より七日目一日位降雨有之候十五日は雨降雨有之候時は泥濘車軸を沒する程に惡道路に變し寔に交通に困難を極め候。

本日は宿營地附近の老農參り候に付少しく農業上に就き相尋候處、清國耕地一區域「一日」と稱するは我三反六畝に當り候、而して其「二日」の價格は上「畑二百元、中畑百六十元、下畑百三十元」にて、御座候、又租稅は「一日」の畑に付六十錢の由に候、目下我々の宿營地附近の農奥所有地は本邦の地積に改算せば五十町程に候、當地も畑と云ふ畑は殆んど貴高粱を作り居り、其收穫は平均一反に付高粱穫實一石なる由、又其一石の價格は平常三四圓なるも現時は戰爭の影響を受けて十一、二圓と相成居候、野生は老農に向つて戯れに何故高粱實より收穫多く味佳良なる米を作らざるかと問試み候處、滿州には水作には不適當なりと答へ候、併し野生は河岸に沿ふて大工事を施せば美事なる水田を作り得る場所夥多之あるべしと信候、一般に土地は粘土に富み候へ共遼陽附近よりは奉天、鐵嶺、開原附近の方地味幾分か豐饒なりと信じ居候、間は滿州と云へば未開墾の地夥多有之と想像致居候ひしが、なるべく反對にして到る處開かれざるはなく山上山下問はず皆耕地ならざるはなき程にして、却て我邦奥羽地方の方未開墾の地遙かに多く有之其較に不相成候。

當地人夫賃は至て高く、目下高粱の間引引に多忙にして人夫は雇主より食事を給せらるゝ上に毎日賃銀一圓五十錢を給せらるゝとは聊か驚入る次第に御座候（普通農民一人一日の生活費二十五錢と承り候）併し之より以後除草耕耘には一日

二三十錢にて候、尤も收穫の時は又高賃と相成り毎日一圓二三十錢の由に候、之は戰爭の影響を受けたるが爲めにして平常は一日の賃銀一人に付二十錢乃至三十錢に候。

過般申上候通害蟲害黴は至て少なく、夜間戸障子を明け放し置くも本邦の如く燈火の近傍に夥多の見蟲類集集することは更に無之候。

當地に於て若し養蠶を爲すとせば六月下旬乃至七月中下旬を以て其時期とすべく（氣溫甚に桑葉の發生より推して）此時期は梅雨を除け蠶見の飼育には最も適當の期節と被存候、又地味は桑に適し害蟲孢少なきを以て枝葉充分繁茂し本邦より好成蹟を擧げ得べしと被考候、又製絲業に就ても沙河、昆河、沙河、遼河の水を利用し滿州に（殊に鐵嶺奉天間に多量に產すと見受候）無盡藏なる石炭（煙台（遼東半島天間）を除くの外は目下は殆ど其價格無く支那農民の家計上に極く少量を持去るを見る位にして、本邦の如く礦夫の採掘し他に運搬打拾てある程に候實の持ち曳れと、多く石炭の地上に露出の儘に用候はゞ極めて安き生產費を要したる生絲を得可く候、工男工女も清國人より容易に安き賃銀にて得らるべく候、唯折々馬賊の侵害可有之候に付文那政府又は本邦の守備隊に依り充分なる保護を爲さば他に蠶業に對して障害となるものは一も無之候。（下略）

伊太利養蠶の近狀

伊國より某所に達したる近信中左の養蠶狀況あり。

本年の伊國は去る三月以來天候不順にして晴雨なく東角降雨勝なりしが五月に至りて特に激甚を加へ、「パドウア」市に於ける或部分の家屋は浸水一週日に渉り殆て「田圃の如き約三尺位の水嵩を以て浸されたる所少なからず、實に千八百八十二年即ち二十三年來の大洪水なりし、如此有樣なりしを以て一般作物には少なからざる被害を及ぼしたるが、特に桑樹の如き發芽の仲間を害すること甚しく、全葉の「ピオンピノ」を生じ著しく其收穫を減じ、爲めに西南部なる「ピオンピノ」一地方に於ては約五分の四五位に至れり、今試に桑葉の價格を或は全然投棄するの止むなきに至れり、今試に桑葉の價格如何を示さんに半年に於ては一基三リンの外を出でざるに、本年は十八リンより二十五リン内外を往來し、一時は四十リンの高價を以て賣買せられたることあり、開くが如んば「パドウア」蠶業試驗場に於ける模範的蠶見實習に於ても軟化病並發の爲め放棄せし蠶見少からずと、一般養蠶家の失敗想像に除あるべし。同試驗所長エンリコ、ヴェルソ氏の像想談に曰く、本年の收穫は昨年に比し、「割」減ぐ、而して昨年は既に平年の一割減なりしを以て養蠶家は二年續きの厄年なりと云へり。

新繭取引高は一萬五千八百七十七基（一基は我二百六十六匁）なりと云ふ、尚最高取引額一基ミリン九十チェンチジミなりし由なるが之を我一貫目の繭價に換算せば金五圓八十六錢なり。

會務錄事

本會定欵の許可

去月十一日の評議員會に於て本會を以て法律の下に社團法人と爲すことに決定し、其定欵を議了して主務官廳に出願せることは前號本誌に記載したる所なるが、右は本月十四日付を以て許可せられたるにより、本會は即ち法人たる資格を具備し茲に本會の基礎に於て一層固を加へ地位に於て一進境を現はせりと謂ふべし、其定欵は左の如し。

定　欵

第一欵　總　則

第一條　本會ハ民法ノ規定ニ從ヒ主務官廳ノ許可ヲ得テ社團法人ト爲ス

第二條　本會ハ皇族ヲ推戴ヲテ總裁トス

第三條　本定欵ハ總會ノ決議ヲ經タル後主務官廳ノ許可ヲ受タルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四條　本會ハ法定ノ解散事由アルニ非サレハ解散スルコトナシ

解散ノ決議ハ總會員四分ノ三以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二欵　目的及事業

第五條　本會ハ本邦蠶絲業ノ改良進歩ヲ圖ルヲ以テ目的トナス

第六條　本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一　蠶絲業ニ關スル諸般ノ調査ヲ爲シ又ハ會員ノ質問ニ應答トスルコト

二　會報ヲ發行シ會員ニ頒布スルコト

三　本邦生絲ノ海外販路擴張ヲ圖ルコト

四　海外ニ於ケル蠶絲業ノ團體ト氣脈ヲ通スルコト

五　蠶絲業ニ關スル集會講習會品評會ヲ開設スルコト

六　蠶絲業ニ關スル教師技術者等ノ紹介ヲ爲スコト

七　蠶絲業ニ關スル書籍ヲ編纂著述又ハ飜譯シテ會員ニ頒布スルコト

八　蠶絲業ニ關スル共同事業ノ發達ヲ圖ルコト

九　蠶絲業ニ關係アル者ノ功勞ヲ調査シ及表彰スルコト

十　前各號ノ外蠶絲業ノ改良進歩ニ必要ナル手段ヲ講究又ハ奬勵スルコト

第七條　本會ノ事業年度ハ毎年一月一日ニ始リ十二月三十一日ニ終ル

第八條　本會ハ大日本蠶絲會ト稱ス

第九條　本會ハ事務所ヲ東京市神田區美土代町三丁目二番地ニ設置ス但シ評議員會ノ決議ニ依リ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四欵　資　産

第十條　本會ノ資産ハ左ノ如シ

一　本會ノ所有ニ屬スル動産及不動産

二　會員ノ醵出金、有志者ノ寄附又ハ遺贈ニ係ル金錢及物品

三　本會ノ事業又ハ所有財産ヨリ生スル收入金

第十一條　資産ノ管理及處分ニ關スル規則ハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第五欵　會　員

第十二條　本會員ハ左ノ三種トス

名譽會員　特別會員　通常會員

第十三條　名譽會員ハ產業ニ關シ偉大ノ功績アル人ヲ特ニ本會ヨリ推薦スルモノトス

第十四條　特別會員ハ本會ノ主旨ヲ贊成シタ入會シ毎年會費トシテ金參圓ヲ前納スルモノトス

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ特ニ本會ヨリ特別會員ニ推擧ス此場合ニ於テハ會費トシテ毎年金壹圓五拾錢ヲ前納スルモノトス

一　本會ニ對シテ功勞アル者

二　蠶絲業ニ關スル學術技藝ニ達シタル者

第十五條　通常會員ハ本會ノ主旨ヲ贊成シテ入會シ毎年會費トシテ金壹圓五拾錢ヲ前納スルモノトス

第十六條　第十四條第一項ノ特別會員ニシテ金參拾圓以上同條第二項ノ特別會員及通常會員ニシテ金拾五圓以上ヲ一時ニ納付シタルトキハ以後會費ヲ要セス

第十七條　退會セントスル者ハ事由ヲ記シテ届出ヘシ但シ會費ノ過納アルモノニヲ返付セス

第十八條　本會ノ名譽ヲ毀損スルカ又ハ會費ノ納付ヲ怠ル者ハ除名スヘシ此場合ニ於テハ既納ノ會費ハ之ヲ返付セス

第六欵　理事及監事

第十九條　本會ニ理事七名ヲ置キ理事中ヨリ會頭副會頭各一名ヲ置ク

第二十條　理事ハ特別會員中ヨリ會頭副會頭ハ理事中ヨリ評議員會ニ於テ之ヲ選擧ス

第二十一條　會頭ハ本會一切ノ會務ヲ處理シ總會及評議員會ノ議長トナル

第二十二條　副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第二十三條　本會ニ監事二名ヲ置キ評議員會ニ於テ特別會員中ヨリ之ヲ選擧ス

第二十四條　會頭副會頭理事及監事ハ名譽職トシ其任期ハ三箇年トス

第二十五條　會頭副會頭理事及監事中欠員ヲ生シタル場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ補欠選擧ヲ行フ但シ補欠員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第七欵　委　員

第二十六條　本會ニ左ノ委員ヲ置ク

學藝委員　通信委員　地方委員

第二十七條　委員ニ關スル規程ハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第八欵　評議員會

第二十八條　本會ハ經費ノ豫算、會頭副會頭理事及監事ノ選擧其他本會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事件ヲ評議スル爲評議員會ヲ設ク

第二十九條　評議員ハ三十名トシ總會ニ於テ特別會員中ヨリ選擧シ其任期ハ三箇年トス

第三十條　評議員會ハ必要ト認ムルトキ會頭之ヲ招集ス

第三十一條　評議員會ハ評議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但シ同一事件ニ付再招集ノ場合ニ於テハ出席員數ニ拘ラス議決スルコトヲ得

議事ハ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第九欵　總會

第三十二條　本會ハ業務ノ成績及收支ノ決算ヲ報告シ評議員ヲ選擧シ蠶絲業ニ關スル要件ヲ議決スル爲總會ヲ招集ス

第三十三條　總會ハ毎年春季ニ於テ之ヲ招集ス但シ會頭ニ於テ必要ト認ムルカ又ハ十分ノ一以上ノ會員ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シ請求シタルトキハ臨時招集スルコトヲ得

第三十四條　總會ノ招集及會議ノ目的タル案件其他決議事項ノ通知ハ會報ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

第三十五條　總會ニ於テ表決ヲ爲スハ出席會員ニ限ル

總會ニ出席セサル會員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出スコトヲ得ス

第三十六條　總會ノ決議ニ付テハ第三十一條第二項ヲ準用ス

第十欵　支會

第三十七條　本會ニ於テ必要ト認ムルトキハ地方ニ支會ヲ設立スルコトヲ得

第三十八條　支會ニ關スル規則ハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第三十九條　本定欵制定當時ノ理事ハ左ノ如シ但シ第一回總會後ノ第一回評議員會ニ於テ之ヲ改選ス

會頭　理事　男爵　松平正直

副會頭　理事　農學博士　酒勾常明

理事　農學博士　紫藤章

同　本多岩次郎

同　佐野理八

同　星野長太郎

同　吉池慶正

第四十條　本定欵制定當時ノ評議員ハ左ノ如シ但シ第一回總會ニ於テ之ヲ改選ス

評議員（いろは順）

伊藤富次郎　林驥作

橋本重兵衛　八田連也

本多岩次郎　星野長太郎

小野光景　針塚長太郎

正親町實正　羽田桂之進

伯爵　若尾幾造

加賀山辰四郎

吉池慶正　高橋新吉

高木三郎　津田興二

辻鳴太郎　土屋泰

角田喜右作　練木喜三

永井米藏　南條吉左衛門

法學博士　桑田熊藏　工藤善助

丸岡寛三郎　男爵　船越衛

佐野理八　北村七郎

紫藤章　下田伊左衛門

農商務省指令農第五九七七號

東京市赤坂區表町四丁目四番地

發起人總代　男爵　松平正直

明治三十八年七月十八日付申請大日本蠶絲會ヲ法人ト爲スノ件認可ス

明治三十八年八月十四日　農商務大臣男爵　清浦奎吾

會頭技藝委員の歸京

去月赤十字社の用務を帶び本會の擴張を企ねて栃木外八縣下に出張せられたる松平會頭及練木技藝委員は本月四日を以て無事歸京せられたり、同一行の巡回せられたる各縣に於ては至る所當業者は非常の熱心を以て歡迎し、會頭及練木氏の演說は頗る來會者に感動を與へ、各縣共直ちに相率て數十百名の入會者あり、一行足跡の印する所蠶絲業將來の振興改善は頓に見るべきものあらん、而して支會役員竝地方委員其他の諸氏が一行に對し斡旋盡力せられたるの勞は深く本會の謝する所なり。

本會第八回品評會出品に就て

本會第八回品評會は再三本誌に掲げたるが如く、千載一遇の盛時に於て戰捷紀念として開催すると共に大に斯業の振興改善に資するの微意なるが、本年の春蠶は不幸にして霜害の爲一般收繭の成績甚だ良好ならざる地方多く、次て夏蠶も又其被害免れざるもの、如く、獨り秋蠶は今日迄の經過良好なりと云ひ且つ春夏蠶不良の欠陷を補はんが爲め掃立數は一層增加せるに似たり、されは秋蠶の收繭額は例年に比して多大の增加をなすならん、依ては其出品も亦多數に上らんことを切に望む所なり、該出品心得中の出品目錄は七月十五日とあるを以て今日に於ては期限經過後なりとなし出品を躊躇せらるゝ向あり本會は其照會に接すること少からざるも、品評會事務所は特に該期日に拘らず受附ることゝなしたれば今後と雖も續々申込ありて差支なし、目下該事務所に受附けたる目錄は既に數千通に達し本會品評會としては未曾有の多數に達したれども、出品は多きが上にも多からんことを希望し特に之れに關する注意を送ふ、但し出品物は審査の時日を要すれば十月二十日の期限迄に到着する樣發送せられざれば審査を加へざることゝなるべし。

福島支會の役員改選

福島支會に於ては第三回總會に於て支會長、幹事長推薦竣に幹事評議員改選の結果左の通就任せり。

支會長　有田義雄　幹事長　菊地武一　幹事　安達鐵三郎

十時知文郎　淺野徳三　青木金治

山田銘　植木期輔　青木金治

評議員　淺野徳三

小杉　善助　　熊坂佐太郎
谷津市之助　　大槻　清
安齊　新八　　柳沼　常八
安達健三郎　　清水　清助
眼江徳之助　　老村　兵庫
洪　清　　山田　修　　十時健次郎
　　宿名　魁蔵　　池田　常蔵
　　大野　惟精　　細貝　順吉

福島支會規則の改正

福島支會に於ては第三回總會に於て其規則中左の通改正せり。

第九條中　支會長一名の下に「幹事長一名」の五字を加へ（内一名専任の事の七字を除く。

第十條中　支會長の下に「及に幹事長」の五字を加へ（専任幹事は幹事の互選）の十字を除く。

第十一條中　一切の事務を整理しの下「幹事長」の三字を加へ「支會長事故あるときは幹事長」と訂正す。

三重支會役員の異動

三重支會に於ては左記の通幹事山村外二氏辭任に就き同支會評議員會に於て増子外二氏を補欠選擧就任せり。

辭任　　山村作左衛門　　桝木　虎吉　　駒田重太郎
就任　　増子　徳之助　　岡井　寛次郎　　谷口　周三郎

パヴィエール氏の謝狀

爵て本會に於て二回の功績表彰を爲せる伊國人「パヴィエール」氏は此程左記の謝狀を本會々頭に贈り來れり。

護啓貴會より損者に贈與相成金壱弁に表彰文共正に受領致候
損者は如何なる功勞ありて斯の如き光輝ある大名譽を拾ふに至りたるやを知らざる所に御座候。
表彰文を拜誦して損者の多年日本に在りたることを記されたる所に至り損者の難しき賞揚に在りたる當時の事情を追想致候、日本に在りたる當時こそ損者生涯中の最も辛苦なる時代なりと存じ候、乍去表彰文中に在る譽辭迄に今損者に與へられたる大名譽は損者の微功に對して甚だ多きに過ぎて何等唱謝する能なきに相苦み申候、閣下幸に損者の敬意を受せられ度候

敬具

千九百五年六月十六日

大日本觀桜會々頭男爵松平正直殿

エ、ド、パヴィエール

會員動靜

本年七月中本會に入會せられし者左の如し。

○通常會員

東京　遠藤信三　　埼玉　森田利平
同　小泉政吉　　群馬　新井友一郎
同　遠藤市五郎　　同　有賀長太郎
同　來住野久太郎　　同　工藤丑五郎
同　神奈川小山幾太　　同　大河原楠太郎
同　田路寅造　　同　中島龜太郎
同　安國十四郎　　同　小熊喜市
同　西尾保馬　　同　千葉宅島林造　　同　篠塚愛吉
同　大分佐藤民之助　　同　伊藤駒治　　同　茨城身内萬吉
同　長野六郎　　同　長谷川敏正　　同　篠原勘次郎

栃木　梅原三千　　長野　土屋長平
同　古口長蔵　　同　小池虎之進　　岡山　村上龜雄
同　田崎鶴吉　　同　廣島　峰善次郎　　熊本　野村基一
同　橋本高十郎　　同　鈴木登市
三重　米野雅三　　同　宮城　　同　上野卯吉　　同　江近治　　同　菊池マツ　　同　白井正貴
同　山本廣吉　　同　大友喜平　　同　宗正圓輔　　同　吉村庫之進　　同　松岡純雄
同　出口傳之右衛門　　同　高知　安國十四郎　　同　新居金三郎　　同　宮崎　　同　楠木崎武重
愛知　小林助次郎　　同　西尾保馬　　同　吉永信　　同　鹿兒島　　同　平山武光
同　宮田民五郎　　福島　水野仙次郎　　同　河内時効
同　稲熊貞次郎　　同　二階堂權兵衛　　同　東志布志村農會
同　加藤和一郎　　同　山本實次郎　　同　佐藤民之助　　同　堀口文作
静岡　岩崎喜太郎　　同　栗原長太郎　　同　長野六郎　　計九十九名
山梨　高野傳一郎　　同　柳田三郎

右の内にて遠藤信三氏は平忠次郎氏。小山氏は齋藤笞三氏。長田友吉氏。來住野氏は林鶴吉氏。小山氏は町谷川氏は門村直中氏。工藤、大河原、身内は岩崎、宮崎、金山、小成、吉原、澤田、吉富、小原、菊池の十二氏は肥塚樓五郎氏。篠塚氏は鎌形寛蔵氏。梅原、古口、田崎の三氏は岡本芳男氏。出口氏は神川亮吉氏。稲熊氏は増子德之助氏。加藤、米山、大友、新居の四氏は二宮鶴松氏。高野、代永、山下、吉田の四氏は山梨支會。北比都佐村農會、日野町農會、西大路村農會等は新海藤之助氏。野州郡農會は滋賀支會、山田氏は松野春氏。矢崎氏は矢ヶ崎三彌氏。土屋氏は三吉米熊氏。上田、伊藤（喜代治）の二氏は牛山竹治郎氏。上野氏は松田丹司氏。二階堂氏は福島支會。山本（實次郎）氏は松本峯吉氏。栗原氏は西月乙正郎氏。内藤氏は小山田武夫氏。田中氏は玉木友市氏。峰氏は早川千助氏。吉永氏は浦部嘉四郎氏。

| | | |

安岡、西尾の兩氏は茨木定發氏、柚木崎氏は進田榮太郎氏。佐藤氏は謙山眞二氏。野村氏は右莊之氏。鈴木氏は細谷久一郎氏。松岡氏は友田新八氏。半山氏は右莊吉氏。河内、堀口の二氏は千藤一榮氏訣れも紹介せられ。小泉、田路、宅島伊藤（駒治）、森田、新井、有賀、中島、小熊、篠原、橋本、米野、山本（廣吉）、小林、宮田、飯島、井金、川崎、小池、青田、水野、柳田、高橋、稲川、芳賀、村上、堀江、宗正、吉村、長野、白井の三十一氏及東志布志村農會等は各自に申込されたり。

又同月中通常會員より特別會員に變更せしもの左の如し。

岐阜　篠原　產　助

又同月中死亡せられし者左の如し。

○通常會員

東京　田村庄藏　　福島　佐藤喜代藏
東京都　多田清太郎　　島根　揖條七郎
山梨　奥山七郎右衛門　　計　六名

本會會員現在數（三千八年七月末日調）

會員總數　七千九百五名

名譽會員　二十六名
特別會員　三百六名
通常會員　七千五百七十三名

蠶桑雜觀

東京蠶業講習所卒業式

東京蠶業講習所にては去月二十七日養蠶講習科本科第八回同別科第九回、製絲講習科本科第九生竟に女生第二回、同別科第三回の卒業證書授與式を擧行せり、當日午前十時清浦農商務大臣、酒匂農務局長、古在農事試驗場長、紫藤生絲檢査所長、松原水產講習所長、加賀山蠶絲課長、月田農政課長、貴族院議員正親町伯爵同船越男爵澤田東京府事務官塩内神奈川縣事務官其他朝野の來賓竟に職員一同著席、本多所長より養蠶講習科本科卒業生十八人、同別科卒業生四十人、女四人、同別科卒業生十一人に卒業證書を授與し、次で優等卒業生七人（養蠶講習科別科二人、製絲講習科本科男一人、女二人、同別科一人）に賞品を付與せり、次に所長の式辭、農商務大臣の告辭、農務局長の訓辭あり、卒業生總代水井壽一郎答辭を朗讀し全く式を了れり、卒業生の氏名、所長の式辭農商務大臣の告辭竟に農務局長の訓辭左の如し。

養蠶講習科本科

長野縣　水井壽一郎　　所木藤　荒井馬次　山梨縣　田邊　德
靜岡縣　田中直義　　福島縣　松下儀一　山形縣　佐藤昌三郎　栃木縣　山中德三郎
茨城縣　清野國治　　埼玉縣　比志島助　茨城縣　鹿兒島縣　岐阜縣　生駒彦三郎
栃木縣　高橋俊　　長野縣　長岡校　東京府　福田良二　東京府　井上金七
宮城縣　大友喜平　　茨城縣　東川秀喜

養蠶講習科別科

靜岡縣　永井健次郎　　群馬縣　篠塚　正田岡太郎　　新潟縣　井口直作
群馬縣　大澤　均　　東京府　福山良三郎　　長野縣　堀内要七
國學院　川村福治　　東京府　賀藤豊吉　　新潟縣　七田峰藏
栃木縣　三森眞一郎　　茨城縣　七田峰藏　　東京府　賀藤新藏
山梨縣　有賀新藏　　新潟縣　池邊音　　新潟縣　池邊音
山梨縣　小泉彌門　　新潟縣　平石正秀　　茨城縣　浅野長治
青森縣　水木政太郎　　東京府　河野靜正　　山形縣　樋瀬林次郎
靜岡縣　鈴木槻太郎　　群馬縣　田島悠藏　　埼玉縣　鷲澤顯光
福島縣　第内源吾　　神奈川縣　能條才助　　群馬縣　佐藤長三郎
福島縣　石原豐治　　長野縣　金井金吾　　山梨縣　遠藤惟光
福島縣　大波俊平　　新潟縣　渕四郎　　山形縣　名取無吉
栃木縣　小野寺　義雄　　千葉縣　芳野富三　　埼玉縣　清野國治
秋田縣　武田政壽　　宮城縣　千葉承吾　　茨城縣　鵜澤藤市郎
山形縣　柴田治郎松　　千葉縣　鈴木巽治　　秋田縣　藤原典治
埼玉縣　度木立作

製絲講習科別科

埼玉縣　篠塚　國戸一榮　　長野縣　赤羽鮑惠　　群馬縣　福島鮑惠
山口縣　伊藤義一　　埼玉縣　町田鐘次郎　　山梨縣　大澤賢　藤勝
群馬縣　小澤正訓　　長野縣　大澤太郎　　山口縣　山田新一
愛知縣　平松伊三郎　　長野縣　平林勇喜太　　鹿兒島縣　鮫島茂
福島縣　宮野勇吉　　福井縣　篤永繁三

製絲講習科本科（女）

富山縣　篠塚　金原ヌヲ　　靜岡縣　篠塚　小野くり　　高知縣　吉村直美
埼玉縣　大河原きん

製絲講習科別科

岡山縣　篠塚　松野すな　　靜岡縣　松井わか　　山梨縣　武井とり
群馬縣　角田はん　　群馬縣　藤巻かつ　　群馬縣　山田ふさ
青森縣　征原すま　　群馬縣　天田いせ　　群馬縣　小目向さい
群馬縣　小桐とみ　　青森縣　中村よし

所長式辭

一農商務大臣閣下賞讃諸君本日は喪業の祝盛路の所頁迎を恭ふし卒業生は御論本所の光榮とする所なり

一今回卒業の講習生は養蠶講習科本科十八名、同別科四十名、製絲講習科本科男生十四名、同女生四名、同別科十一名合計八十七名なり

一翌も本所は明治十七年内閣下町に於設置せられたる蠶糸試驗場に胚胎し其後多の變遷を經て今日に至れり顧して其變遷の主なるを明治二十三年新業指導者養成の目的を以て修習の程度を高め學理及實地を教授するに至れり同二十九年には製業講習所官制の發布となり更に程度を高めて本科及別科を設く同三十二年に以東都蠶業講習所の增設なる本所は東京蠶業講習所と改稱せり同十五年には製絲部を擴張して製絲の講習を開始し爾來養蠶絲の二部に分るゝに至れり

一本所の學る業務は養蠶製絲に關する各種の試驗調査講習竟に實用指導等にして其試驗成績の主なるものは毎年之を印刷して一般當業者に授付し之が普及を計れり又一方に於ては有試驗成績を基として講習を行ひ是等講習なして本業の後各地に於て當業者に普及せしむるを方針を取れり故に本所の試驗と講習とは其關係甚だ密なるものあり

一本所養蠶卒業生の數は今日迄既に千七百四十名に上り其中本年の五十八名を加ふれば其別科三百八百名に達し又製絲卒業生は去る三十五年講習開始以來本年に至る本科二百別科三百四十九名に達せり

一是等卒業生は養蠶に於ては府縣の技術官補蚕種取締所蚕業試驗場の嘱託教師蚕種製造所の技師として其數九十名に達し其他蚕種製造所の技

り尚は将来充分の庶務あらんことを望む

一次に染色工諸子に言ひん諸子は入學前既に養蠶皆くは製絲業に三箇年以上の經驗あり更に本所に入り學理及技術に就き規定の教養を受け今や社會に出て之れか実地運用の任に當らんとするに臨み諸子に期待する所決して少なからず然れとも社會は複雑なりとするの本所は実地に無用なれこれは失つ信用を獲する都合悪なりとす故に願らく流義を重んじ細心注意勤勉以て社會の信用を獲し將来益々蠶絲業の改善發達に努め以て本所教養の旨趣に答かあらんことを望むまた告辭と為す

農商務大臣告辭

蠶絲は我農家最大の副産にして外輸出品中の首座たるを以て我邦生産品中の巨擘たり故を以て國家經濟の經理上常に監督に指導の所なり今日の我邦たる現下の如く國家有事の日に際しては一層其責大なるものとなり諸子は本所の課程を修了し將来の實務に出で本業の改善に從はんとす若し

意に満力の指長に期するの因より論為供たす故を以て同年は常に之れか誘導奬勵
なるもすり以て其發達を促進せんことは期せり本所か設置し以て蠶子を飼養するか
如きも亦蚕官に於ても既に此指官に外ならさるなり今や我邦非常の時秋に遭遇し國力を挽養し
に當り諸工太た急なるものあり即ち蠶絲業の振興奔一層其勢を加ふるなり故時
本所の職程を終了し將さ出でて蠶絲の機に當らんとす其責任の重
大なる海に早日に位置するもの諸子自家をくし諸子自家を教養する所以の
趣旨を體し深く時局の進轉に鑑み恢弘己を持し勤精を從ひ所業の改善に努め以
て國運の健展に資する所あらんことは是れ即ち諸子か為め立つの道なるのみな
らす翼かの義勇公に奉する所以の道なり一言以て告辞とす

農務局長訓示

余は蠶業局長として卒業生諸子に一言せんとす余は茲に二箇の話柄を有す一は
人力か以て天然かを左有ること能はさるの事にして其一は養蠶の勢富を希望すること之なれ
り

人力か以て天然か左有ること能はさるの事に於て其は多作の如きは個
体か有せすと雖も本春の如き常南運日に亘るの不幸を見るときは際し或は減少
すること為ふ得へしとは本春の如き常南運日に亘るの不幸を見るときは際し或は減少
なる屋常な建築の内に貯蔵するときは深く繭等を減少
することを得へしとは人力か以て天然を左有するの例證にあらすや余は先日岐阜
に垂り農學校を巡視して其養蠶主任より聞きしことあり曰く本年は常地は養蠶
不作なりしにも不拘當校に至て豊作なりと依て余は即ち其原因を問ひ其栄大な
る貯蔵場あるを見て安もあるへしと信ぜり反之逆日蔵桑を與へしものは其結果
不良なること見易きことなりすや群馬縣の如きは本年の蠶業の不作は即ち蔵桑の
不足なること見易きことなりと云へり

次に桑園の注意狀況の改良に於ては一層改善を加へすへしとは常所長の如き熱心に
唱道せらるゝ處にて余も亦此點に付て注意を加へすと即ち請力よりの組合其他に
依て今後の桑園は一層改善を加せらるへかしず

今日迄の常業者は桑育の改良に於ては餘全く如之秋蠶の盛大に甚くに從ひ
桑葉を與すること益々多くを從て桑園の經營を來すことは尤しく之を修補することに
並ち用かる結果蠶業の盛なる所は必ず江桑園の修理行届かさる點あり本日卒業
せるる諸子は深く茲に注意して桑葉と蠶見との關係に改良の宮迎みして益
光輝を放たしめよ一言以て諸子に戒告すること然り

蠶繭國の教婦招聘

今回蠶種國に於て本邦より製絲教婦二名雇聘したる趣を以
て同國在任の田原蠶業技師より、紫藤生絲檢査所長と本多蠶
業講習所長に其人選方を依頼し來りたるに依り、二氏は京都
府岡田と、群馬縣小金澤さわの兩女を選抜したるに兩子又
奮ふるて應諾し、去十九日出帆の獨逸船「プリンツアイタル、
フリードリヒ」號に乗じ出發せり、右岡田子は東京蠶業講習
所本科第一回の卒業生にして赴任前さては同所教婦の任にあ
りし、小金澤子は同第二回の本科卒業生にして試驗工女たり
しか昨今教婦となりし入なり、兩子共在學中より品行方正に
して資性溫良堅實、技術又優等を以て稱せられたる人と聞け
ば、赴任後は大に彼地の製絲上に改良の效を奏することなら
ん、而して二子の雇聘契約は二ヶ年間にして岡田子は「コー
ラ、ヂート」に、小金澤子は「バンコック」に於て其の地製絲場に
在勤すべしと云ふ。

桑園改良の成蹟

山梨縣南巨摩郡にては過般桑園共進會を開催し其出品審査
を為したるが、出品桑園主中一反歩に付き桑葉五百貫の收穫
を得たるものあり實に稀に見る好成蹟なるを以て同縣蠶絲課
にて殊に其增收原因を調査したりしに左の回答ありたりと云
ふ。

一、貸作人意に桑園所有者
一、桑の種類及桑間反別

南巨摩郡増穂村　紫藤雄吉

種類中霜　反別二反五畝歩
一、普水蒔付年月及苗木種類
植付日明治二十二年三月五日村近年稀害の為年々一割を植替へたり
一、植付其米施せる肥料の種類及施肥の時刻
一反歩に付消費年多割の四十八貫を期に三十二貫を施す即ち二月二日
二十二把二、四六、七、八、十三の六個に人糞二百四十荷一回四十荷を施せ
り
一、培養手管方法及其回數
除草三回剪伐十、十二の兩月中に敢間の兩方に剪割り前項の製葉を第一降
霜及害の關係は施肥に準し行へり
以上の調査報告に依れは施肥の量少しく多きに過ぐるやの
感あるも、普通一反歩二三百貫目の收穫に止まるを五百貫目
に增加したるは非常の好成蹟たるを失はずといふべし。

生絲檢査所月報（七月分）

檢査件數

檢査年月	原量	品位	繰減	計
		正量		
本月	二、四二七	三、六六九	一四	六、二一〇
前月	六四二	一、〇五〇	二	一、七九四
昨年當月	二、八六〇	二、五六三	一	五、四二四
本年累計	一三、二二三	一二、八〇六	一八	二六、〇四七
昨年當月迄累計	一、五一八四六	一〇、五六二	三	二六、四一一

正量檢査

一檢査件數	二四二七件	
一總金量	一一〇、五四六九二〇瓦	（紹斤） 一八四、二四五斤
一總風袋量	二、一〇六六六、六〇瓦	三、五一一斤
一總原量	一〇、八四四〇五六〇瓦	同 一八〇、七三四斤
一總無水量	九五、六四六五三四〇瓦	同 一五九、四一一斤
一正	總原量と正量との差二、二七二、五七五、六〇〇瓦	同 一七六、九四六斤

生絲種別　檢査件數　平均　最多數　最少數　百分比例

器械	二、二二八	一一、七九	一四、〇六	九、一六	一、〇〇〇
座繰給造	一三九	一一、三三	一二、五一	一一、一八	〇、一四
揚返	六〇	一一、九三	一二、六五	一〇、九七	〇、〇六
總平均	二、四二七	一一、八〇	一四、〇六	九、一六	一、〇〇〇

品位檢査

絲別	檢査件數	有數	切絲數	平均	纖度	額差	大類	小類	纖度	強力及伸度	強力	伸度
器械	二、二八	一四	一四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇	一	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
中級器械	四八六	六	六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇	二	二	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
座繰給造	一三六	一	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇	一	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
揚返	六〇	一	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇	一	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
大類器械	二、二二八	一四	一四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇	一	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
座繰給造	一三九	一	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇	一	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
揚返	六〇	一	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇	一	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
特大器械	六	一	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、〇〇〇	一	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

蠶海涓滴

▲棒太割譲　と償金支拂は絶對に拒絶す、露國は皆の知る風説なれども、棒太を譲渡する悲境に陥らずとイイテテ言ヘキヤクの沙汰半終た血迷た手。

▲戰敗者は　戰敗者に償金を出しむる事は是れ古來より國際上の慣例、棒太は元と是れ日本の屬島一時露國に貸與せしものの之を割取すは理の當然也。

▲出さぬな　ら出さぬで可なり、頑冥の露國正理を失ひて無理を通しもせず我國と魂とは棒太に思か西比利か越へ露の本國の息の根を止め噛潰するなり。

▲誘和問題　の西電報に曰はく、今日は既に今は好望を得ふ恰も現実後の陰晴常なきに似たり語和の成否故て難せず唯天後の陰晴を顧みて解る。

▲日本生絲　戰時の消費は主として其大半米國に輸出せられ、今日の事情は米國の需要殺減の豫想に基き、昨年に比して百萬瓦減ずるも例年に比し増額。

▲世界生絲　の産額は機業の旺盛と共に年々増加す、本年の事蠶世界の不作なる故に例年に比して百萬瓦減ずるも例年に比し増額。

▲蠶絲改良　奬勵法を設け蚕業製絲に奬勵金を交付し蚕造を物ぐべとの設あり、一歩先なれど長期後の事論を待て後れを得たるやを否やを見ひ物。

▲群馬知縣　秋蠶飼育制限の告論を發し繁殺の壁蠶を縣下の休戦期間と時ふ。

▲秋蠶飼育　の旺盛は蠶業の一大基礎を成せり、現在の儘で秋蠶奬勵を為すべきかはらず桑園を廃棄秋蠶共に消滅せんのみ、然らば秋蠶制限すべきか。

▲秋蠶禁止　すべきか但く大に禁ぜず、大に桑園を開墾して大に夏秋蠶を飼育せん、偖の桑園を設けて、偖の桑園を開墾せしめよ、是れ刻下の最大急務。

▲國本培養　の議會建議に對し政府は具體的立案を官吏に望む。

▲山梨縣の　蠶種同業組合は出品獲拔規程を設け大に組合員の生産品を蒐集一致以て本年品評會に出品せんとすと云ふ、思ふに多數の優品出陳せん。

新刊批評

實業教育養蠶唱歌

林木喜三著作
九州教育會發行

本書は綱木喜三郎蠶業教育の要旨を八編もん が爲の其提程として先づ小學生徒に養蠶唱歌を著し文部省の檢定を受けたものである、氏が養蠶上の智識技能は既に世の蠶唱歌を著し文部省の檢定を受けたものである、氏が養蠶上の智識技能は既に世の蠶唱歌なれば其作歌の如何に當業に適切なるかは此に説弁ふを俟ぬ而して其作曲は音樂の大家なる小山作之助氏の手に成ったれの故から其曲譜の優婉なる之を兒童の唱歌として又好適であろう、其桑園に始りて上蔟收繭に至るまでの精密なる極致は兒童の眼を驚ましむべく、附帯せる説明は蠶業の大意を眼環ぜしむるに足り、小學校の唱歌用書としては最も適當なるべく思はる又紙數四十三頁定價金五錢）

愛媛縣農商工統計便覽圖

愛媛縣第三部發行

農商工統計年報は各府縣に有り殆れた年報である云、農商工統計便覽圖は頗る結坊なる各種の統計表を彩色刷版を以て印刷したものて、官廳出版物中では趣味多きしと云ふべきである。

第十九世紀戰疫小史

大日本私立衛生會　長與專齋先生原著

本書は大日本私立衛生會御事務委員榊山譯學士が同會の爲めに「コーレレ」文庫中の第十九世紀に於ける戰疫之始末を譯述したものて、今次の日露戰中に於ればんとする戰疫に對し好適の參考書である。（紙數七十頁定價金拾錢）

愛媛縣夏秋蠶試驗所事蹟報告

愛媛縣第三部發行

夏秋蠶と桑園し風交若或桑園在蠶種製造等各種の試驗を為したる事蹟報告で當業者の參考とするに足る、此種の試驗は既に至らりの所為の知き宜立試驗所で夏

秋蠶と桑園の關係に於て充分の試驗を為し當業者の注意を促して貰いたい。

寄贈書目

三十七年度蠶種檢査成績
三十六年度愛媛縣農商工統計年報（第二編）
同　統計便覽圖
第十九世紀戰疫小史
ふーざん唱歌
明治三十五年西伯利亞獨逸牧畜動業二覽表
愛媛縣夏秋蠶試驗所事蹟報告
第九回總集會報告
蠶種檢査成績
蠶種製造成績
第七報
第三號
第五十八號
第二百八十九號
第二百七十二號
第五十四號
第百五十六號
第八十八號
第百二十一號
第二十一號
第七十五號
第六十四號
第二百一號
第二百二十一號
第百四十八號
蠶業新報
東洋學藝雜誌
植物學雜誌
蠶業新報
第百八十六號
第五十一號
第百二十八號
第十九號
第二百九十七號
第二百二十二號
第百四十八號
蠶業新報
東京學士會院
第五十一號
第二百九十七號
第十九號
教育公報

Prezzo durante il mese di Luglio. Yokohama Foreign board of trad
Bollettino di Sericoltura No. 24-27 Pubblicato a cura dell' Associazione dell' Industria e del Commercio dello
Stato in Italia

人事彙報

▲藤島盈文氏　本會特別會員なる藤島盈文氏は今回神奈川縣津久井郡立蠶業學校長兼同校教諭に任ぜられ十三級俸を下賜せられたり。

▲小田勢助氏　山口支會に於て養に基本金募集の決議をなしたるも次で征露の事變あり旁々一時中止せしが今回本會通常會員なる同支會員小田勢助氏は該基本金として金百圓を寄附せられたり。

交詢餘錄

○**蕊**綿　五餘期見本譲り受け希望に付御照會相成方多く双方の手數なるに依り爾後御希望の方は綿代五錢郵送料十錢封入申込ありたし　新潟縣西頸城郡能生町　山瀧崎三郎

○**春蠶種分與**　改良又昔長形一升二百二十粒框製原種用種一蛾壹錢五厘にて分與す要望者は至急申込あれ

熊本縣鹿本郡菱形村　石田農場蠶部主任　北野辰雄

○**晚秋蠶種分讓**　二化生種類白龍希望者は八月廿五日より九月五日迄に實費壹蛾に付七厘の割合に切手を添へ申込あれ一名に付五十六蛾迄分讓す　長野縣南安曇郡安曇村　中澤豐吉

○**春蠶種分讓**　框製原種用檢査濟改良又昔（長形一升二百廿粒　實費一蛾壹錢五厘にて分與す望者は急に豫約申込あれ

熊本縣鹿本郡山本村弘盛社蠶業講習所　細谷久一郎

○**晚搗秋蠶種分讓**　框製白龍（風穴貯藏）原種用檢査濟實費一蛾壹錢四厘にて分與す望者は代金添へ急に申込を乞ふ

熊本縣鹿本郡味取町　鈴木愛吉

○**秋蠶種分讓**　晚搗秋蠶種白龍框製原種用實費壹蛾壹錢五厘にて分與す要望者は代金添付急に申込あれ

熊本縣鹿本郡山本村　原口丹造

交詢餘錄の一欄は、桑苗、蠶種、書籍等の讓與、讓受及び各種蠶絲業に關する相談、問答等を自由なちしめ、會員諸君の便宜に供せんとするにあり然れども紙面に限りあれば多大の希望を悉く充たす能はず、故に一名に就き五百字二十七字詰一行（住所姓名共）の範圍内に制限すべし、但し賛名若くば蠶絲業に關係なきもの及び營業の廣告は掲載をなさず、字數の多きものは削除することあるべく、作數多きときは到着順にえらび詰し掲載することを得る場合には翌月分に讓ることあるべし。

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI EN DIVERSES INDUSTRIES.

(Juillet 1905.)

	Report.	Brought over.	Arrivé.	Arrivol.	Vendu.	Sold.	Exporté.	Exporol.	Renvoyé.	Sent back.	Amporter.	Bronddt forward.
Filature.	1.226	*Piol.*	7.323	*Piol.*	4.583	*Piol.*		*Piol.*	294	*Piol.*	3.671	*Piol.*
Filature.	131		807		304		—		64		570	
Zogurí.			248		42		—		15		164	
Kakoin.	3		3		—		—		2		9	
Kakoin.	8		8.351		4.929		4.329		275		4.414	
Orikayoshi.												
Other.	1.268		9.048		6.043		5.066		372		4.384	
Autres.												
Total.	1.711											
1904.												

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

(July 1905.)

MARCHÉ DES SOIES.

MARCHÉ DE YOKOHAMA

Voici la situation de notre marché au mois de Juillet dernier.

Pendant les dix premiers jours, notre marché a été très calme la pauvreté des stocks paralysant de plus en plus les affaires. Les prix pratiqués ont accusé une baisse graduelle tantôt de 5 yen tantôt de 10.

Le calme que nous avons ainsi constaté à été par contamination, la note dominante de la dizaine suivante. Mais les quelques demandes signalées pendant cette dizaine, permettaient de constater une légère teinte d'amélioration, on a vendu, le 19 courant, les soies "*Orikiroshi*" de la nouvelle récolte Quant aux prix, on a payé 950 yen pour "*Hinodeyama*" avec une plus value de 50 yen sur les prix de 1904. Entrant dans la dernière dizaine on a enregistré une nouvelle activité et un assez bon contant d'affaires. Le 24 courant il s'est traité quelques affaires sur les nouvelles soies de "*Zuyori*" de "*Nomiki*" entre les quelles "*Genin mamai*" de "*Unishio*" et "*Akaji*" de "*Kawakaki*" ont pu bénéficier les hauts prix de 1.010 yen avec une plus value de 80 yen sur ceux de l'année dernière. Il semble en somme que cette amélioration des affaires, loin d'être éphémère, continuera à progresser.

Les tableaux suivants indiquent d'ailleurs le mouvement des soies durant le même mois.

MARKET OF YOKOHAMA.

The condition of the rawsilk market during July last:

At the first ten days the market was very calm, by reason of rarity of the stock. Thus the condition became dull step by step and the price also, cheap gradually, such falling as yen 5, 10, etc. The market continued unchanged during the middle ten days. But there came the telegrams for the new orders immediately. The market became somewhat active and at 19th day the fold rawsilk was exchanged for the first time. Indeed "Hinodeyama" was 950 yen—increase of 50 yen, having compared with that of last year. The last ten days came. At 24th day Jishi Namb's sorrels were bargained firstly. The price of Unisiba's "Gokimmusme" and Kazuyashi's "Akaji" was 1010 yen, the higher one (the increase of 80 yen) than that of last year. Since then the market, it seems to me, has tended to became active.

The following list shows the movement of rawsilk during last July.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI PAR JOURS.

DIAGRAM SHOWING DAILY MOVEMENT OF RAW SILK

	Soie. Silk.				Maximum du prix. Highest prices.	
cours. Days.	Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée Sent back.	Exportée. Exported.	Noms des filateurs. Names of filaturs.	Prix. Prices.
	Piculs.	*Piculs.*	*Piculs.*	*Piculs.*		Yen
1	112	36	37	—	Yajimagumi.	1.050
2	232	—	—	—		
3	—	88	22	—	Fujikyôdôgumi.	1.010
4	573	32	—	142	Shiyôken.	1.025
5	189	27	22	—	Kinkôkwan.	1.030
6	141	192	9	—	Yajimagumi.	1.050
7	269	130	16	—	Yuzuno-seishijô.	1.050
8	129	75	5	325	Shinshôsha.	1.040
9	135	—	—	—		
10	—	148	12	—	Ishikawa-seishijô.	1.025
11	645	187	—	—	Kurihara-seishijô.	1.015
12	455	165	10	—	Yajimagumi.	1.040
13	175	370	10	—	Kusanagisha.	1.055
14	250	281	4	686	Miyano-seishijô.	1.040
15	215	230	20	—	Murata-seishijô.	990
16	402	—	—	—		
17	—	142	43	—	Shinshôsha.	1.030
18	425	152	—	345	Chûbisha.	1.040
19	357	246	17	—	Mikunisha.	985
20	274	152	14	—	Kôsnisha.	990
21	256	291	10	—	Kokubôsha.	1.040
22	272	314	23	917	Jônansha.	1.015
23	375	—	—	—		
24	—	118	32	—	Kônansha.	1.040
25	597	111	—	311	Katakurôômiya-seishijô.	985
26	370	453	7	—	Toyodakwan.	1.025
27	213	373	12	—	Yuzuno-seishijô.	1.045
28	614	366	8	—	Goshôkwan.	1.020
29	278	74	11	162	Sanseisha.	1.025
30	398	—	—	—		
31	—	174	31	1.451	Kokubôsha.	1.050
Total.	8.352	4.929	375	4.339		

1 yen want environ fr. 2.50. 1 Picul = 60 kilg. environ.

ARTICLES DE FOND.

Errata.

Dans notre dernier numéro, il s'est glissé quelques erreurs typographiques au sujet de l'article de Monsieur K. Kawashima intitulé "DE LA PROPHILAXIE DES MALADIES DE VERS A SOIE AU JAPON."

A la page 2, la 22ème ligne et les suivantes contenant les phrases:

((2. L'évaporation de formalin par l'instrument de Trillat.

3, [Evaporation de formalin par l'instrument de] Lingner et par le simple bassinet qui produit un petit brouillard comme celui de Muratori, Kawamura, Momoki, Maruyamasha etc.))

doivent être remplacées par la rédaction suivante:

"2. L'évaporation de formalin par linstrument de Trillat, Lingner et le simple bassinet.

3. Distribution de formalin par l'instrument qui produit un petit brouillard comme celui de Muratori, Kawamura, Momoki, Maruyamasha etc."